



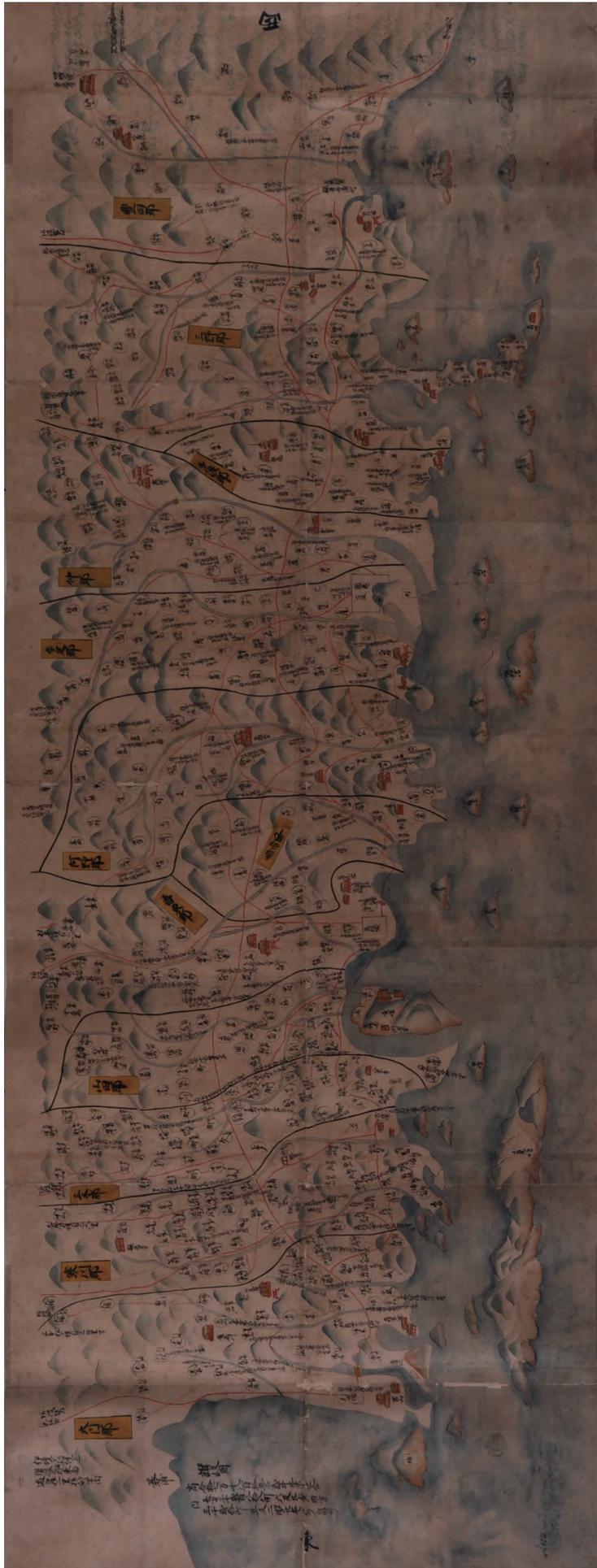
高松市歴史資料館 年報
平成20・21年度 No.12



O.0387
夏山水樓図
長町竹石筆
紙本墨画淡彩
寛政 10 年 (1798)



O.0394
秋景山水図
細川林谷筆
絹本墨画
文化元年 (1804)



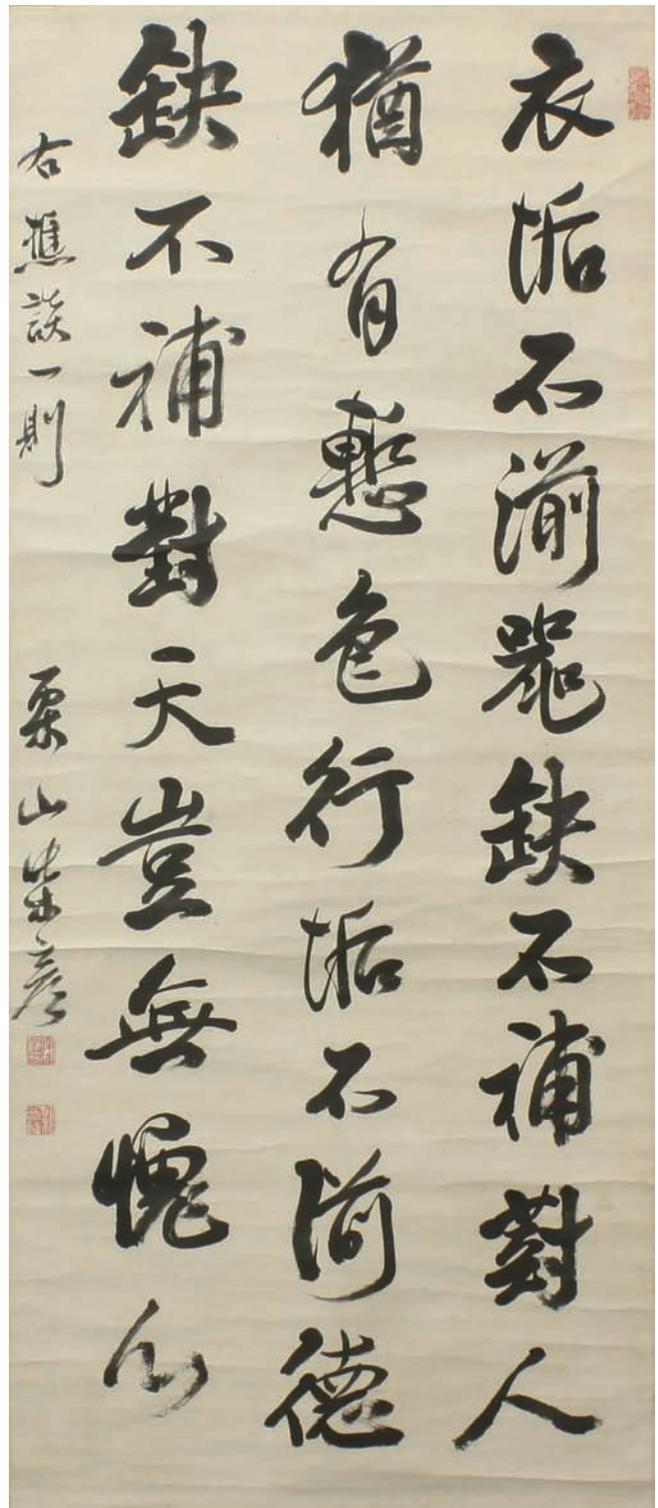
A.0711
讃岐国絵図
紙本墨書着色
原本江戸時代



0.0408
玉堂富貴図
戸塚茗溪筆
紙本着色
嘉永元年(1848)



O.0410
花鳥図
亀井東溪筆
絹本墨画淡彩
江戸時代(18世紀末～19世紀初頭)



T.0518
三行書「樵談一則」
柴野栗山筆
紙本墨書
江戸時代(18世紀末～19世紀前半)

目次

口絵（新収蔵資料より）

I 展示

- 1 常設展..... 02
- 2 特別展..... 04
- 3 テーマ展..... 10
- 4 ロビー展..... 11

II 教育普及

- 1 サンクリスタル学習..... 12
- 2 講座..... 13
- 3 博物館実習..... 15
- 4 広報活動..... 15

III 資料整備

- 1 収集..... 16
- 2 貸出・特別利用..... 17
- 3 高松市収蔵品情報システム..... 18
- 4 ボランティア活動..... 18

IV 管理運営

- 1 設置目的..... 19
- 2 建設基本構想..... 19
- 3 沿革..... 19
- 4 施設概要..... 20
- 5 組織と業務..... 20
- 6 関係法規..... 22
- 7 統計資料..... 26
- 8 利用案内..... 28

I 展示

1 常設展

常設展示では、基本テーマを「瀬戸内海に育まれた高松の人々の暮らし」とし、高松の原始から現代にいたるまでの歴史と文化の変遷を通観できるようにしている。高松のすばらしさを知り、理解を深めてもらうのが目的である。

展示手法としては、各時代における特徴的な事象をテーマにすえ、実物資料・レプリカ・模型の展示だけでなく、映像資料・グラフィック等も駆使して、観覧者の知的要求に応じられるように特色ある展示構成を図っている。

また、別室のプレイミュージアム（学習室）では、コンピュータなどを使って、高松の歴史や文化の情報を楽しみながら学べるよう工夫している。

なお、展示資料は、新収蔵資料による展示替えや資料の保存を考慮して随時入れ替えを行っている。

常設展示室

| テーマ | サブテーマ |
|-------|--|
| プロローグ | 海を渡る |
| 原始・古代 | 高松平野の成立 ・高松最初の人類 |
| | 稲作の発展と高松 ・稲作前史 ・稲作のムラ |
| | 石清尾山古墳群 ・古代の国際交流 ・高松の古墳文化 |
| | 仏教文化と高松 ・高松平野の奈良時代 ・花開く仏教文化 |
| 中世 | 源平合戦と屋島 ・屋島合戦 |
| | 武士の活躍と高松 ・荘園と農民 ・讃岐国守護細川氏 ・戦国武将 |
| 近世 | 城下町高松の発展 ・高松城築城 ・香東川と栗林荘 ・高松城主松平家 ・城下の賑わい ・高松の上水道 |
| | 讃岐三白と交通 ・讃岐三白 ・港町高松 ・街道と海運 |
| | 町人文化と高松 ・高松の教育 ・町人文化と暮らし |

| テーマ | サブテーマ |
|-------|---|
| 近・現代 | 近代都市高松の発展 ・文明開化の時代 ・高松市の誕生 ・連絡船の時代 ・市民の生活 |
| | 高松空襲 ・戦時体制 ・高松の戦災 |
| ミニアター | 高松訪ね歩記 |

映像資料

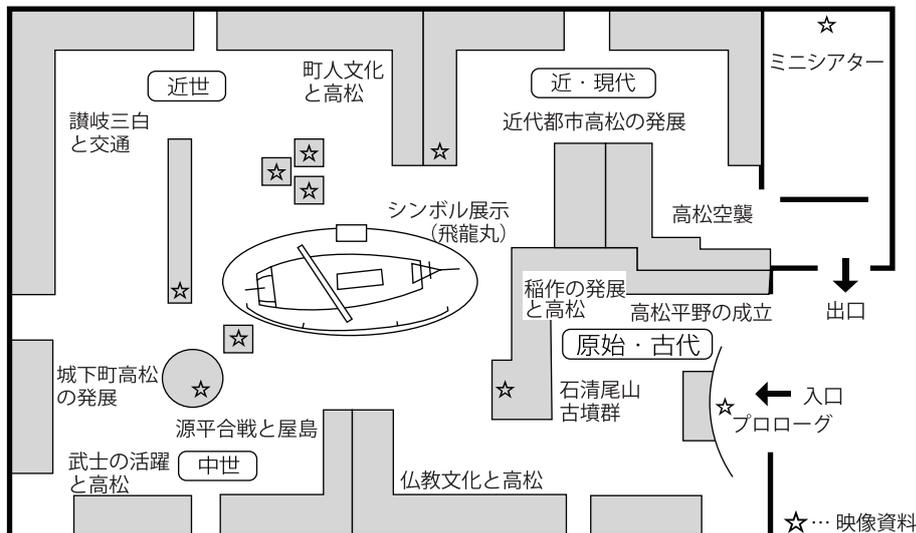
| 映像種類等 | 映像資料名 |
|-------|--|
| プロローグ | 海を渡る |
| 総覧映像 | 高松歴史ニュース |
| 詳細映像 | [原始・古代] 高松平野の姿 旧石器時代の生活 縄文時代の生活 稲作のムラ 石清尾山古墳群 積石塚古墳と盛土古墳 条里のムラを歩く |
| | [中世] 兵庫北関入船納帳にみる交易 戦国の世の高松 — 悲劇の城 喜岡城 |

| 映像種類等 | 映像資料名 |
|--------------------|---|
| 詳細映像 | [近世] 再現された飛龍丸 城下町の賑わい 木村黙老と「聞ままの記」 高松城下町の変遷 ・塩田風景 ・丸亀町筋と常盤橋 ・石清尾八幡神社 ・寺町筋 ・東浜舟入と内町五町 ・城下の井戸 ・高松藩の藩船 ・本丸と天守閣 |
| | [近代・現代] 文明開化の先駆者「川崎舎竹郎」 大正デモクラシーと伏石事件 高松砂漠 |
| ミニシアター 「高松訪ね歩記」 | <ul style="list-style-type: none"> ・塩江美術館に行く ・女木島に行く ・庵治石を訪ねて ・中央球場を訪ねて ・盆栽を訪ねて ・ガソリンカーを訪ねて ・庵治・純愛の聖地を訪ねて ・石清尾山古墳群を訪ねて ・ため池と伝説を訪ねて～三郎池・平地編～ ・柴野栗山を訪ねて ・御厩焼を訪ねて ・遍路道を訪ねて ・屋島を訪ねて ・香川漆器を訪ねて ・男木島を訪ねて ・町並みを訪ねて～仏生山・香西編～ ・高松港周辺を訪ねて ・香東川を訪ねて ・披雲閣を訪ねて ・菊池寛を訪ねて ・五色台を訪ねて ・西浜を訪ねて ・保多織を訪ねて ・丸亀町を訪ねて |
| ファンタビュー | 源平屋島合戦 |

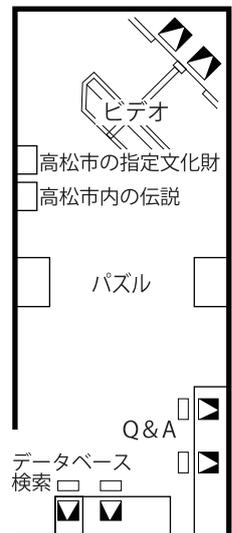
プレイミュージアム(学習室)

| コーナー | 映像資料名 |
|----------------------|--|
| ビデオ | <ul style="list-style-type: none"> ・水の武術「水任流泳法」 ・高松市の伝統工芸 ～玉楮象谷と美しき漆芸の世界～ ・高松市の文化財 I ・へんろ道を歩く ・平家伝説を訪ねて ～悲劇の落人たち～ ・忘れかけた手作り遊び ～親子のふれあい～ ・高松の祭礼 ・失われゆくふるさとの手仕事 ～日傘と紙すき～ ・高松市の文化財 II ～仏像彫刻の世界～ ・古代との対話 ～高松平野の遺跡発掘～ ・失われつつある手仕事「炭焼き」 ・讃岐が誇る文人画家「長町竹石」 ・古代の瓦～瓦が解き明かす歴史～ ・古代の城～屋島に刻まれた歴史～ |
| Q&A | たかまつのれきしクイズ |
| データベース検索 | 高松市ウェブミュージアム |
| 高松市の指定文化財 高松市内の伝説 | |
| パズル | |

常設展示室



プレイミュージアム(学習室)



2 特別展

当館の核となる事業の一つとして、年度ごとに特別展を3回企画している。平成20年度は「近代香川の人物譜」、「人形の・夢・見ゆるひと」、「近代をつくった大工棟梁」を、平成21年度は「資料館がすいぞくかん!? 造形にみる水のいきものたち」、「対決・協調 カップルズ」、「民具と生活、それぞれの四季」といったバラエティに富んだ内容で展示紹介した。毎回開催に当たり、下記から後援をいただいた。

朝日新聞高松総局・NHK高松放送局・OHK岡山放送・産経新聞社高松支局・山陽新聞社・RSK山陽放送・四国新聞社・KSB瀬戸内海放送・TSCテレビせとうち・RNC西日本放送・毎日新聞高松支局・読売新聞大阪本社

※なお、第50回特別展のみ、社団法人日本建築士会連合会・社団法人香川県建築士会・社団法人日本建築学会四国支部・建築史学会・香川県建設業組合からも後援をいただいている。

第48回特別展 近代香川の人物譜 — 菊池寛と同じ時代を生きた人々

会 期 平成20年6月14日～7月27日(38日間)
観覧者数 1,725人(うち有料観覧者数238人)

平成20年は高松を代表する文豪、菊池寛(1888～1948年)の生誕120年、没後60年の節目にあたる。明治41年(1908)19歳で郷里高松を離れ上京した菊池寛は、やがて小説家・劇作家として文壇で活躍する一方、文藝春秋社を設立して実業家としても成功をおさめた。また競馬や麻雀などの世界に没頭した他、衆議院選挙にも立候補するなど、その生き方はまさに多才なものであった。

本展は菊池寛と同じ時代を生き、活躍した香川県出身の人物に焦点をあて、その功績と生涯を紹介した。鬼才のジャーナリスト宮武外骨や、琉球芸術の探求に生涯を捧げた人間国宝・鎌倉芳太郎など、各方面の人物を取り上げ、著作や作品・遺品などの縁の品々を展示した。明治から大正、昭和にかけて目まぐるしく押し寄せる近代日本の時代の波を、それぞれ持てる力と、揺るぎない信念をもって乗り越えたその生き様を、現代を生きる私たちの指針としたい。

主な展示資料

- ・ 小島烏水『浮世絵と風景画』 大正3年(1914)
- ・ 小西和『瀬戸内海論』 明治44年(1911) 東かがわ市歴史民俗資料館蔵
- ・ 野生司香雪《窟院の朝》 大正9年(1920) 香川県立ミュージアム蔵
- ・ 宮武外骨編『滑稽新聞』 明治時代 綾川町教育委員会蔵
- ・ 宮内フサ《ほうこうさん》 昭和時代 当館蔵
- ・ 三土忠造《三行書》 昭和時代 個人蔵
- ・ 鎌倉芳太郎《型絵染芦蜻蛉文「爽」》 昭和55年(1980) 香川県立ミュージアム蔵
- ・ 南原繁《色紙》 昭和時代 東かがわ市歴史民俗資料館蔵
- ・ 長尾雨山《紅荷紫蟹図》 昭和2年(1927)

関連イベント

- 講演会 午後1時30分～/サンクリスタル高松3F視聴覚ホール
「スコブル滑稽反骨精神・宮武外骨の生涯」
6月21日(土)/講師:砂古口早苗(ノンフィクションライター)/参加者:66人
「日本画家・野生司香雪の世界」
7月5日(土)/講師:溝渕茂樹(元香川県文化会館学芸員)/参加者:30人
- ギャラリートーク
特別展示室において/午後2時～/6月22日・7月6日/堀純子(展覧会担当者)/参加者延べ11人
- ワークショップ「高松張りづくり」
7月12・13日 午後1時30分～3時/第1集会室/講師:西村昭子/参加者21人



▲ ポスター



▲ 図録

印刷物

- ・ ポスター(B2)
- ・ チラシ(A4)
- ・ 図録(A4・24頁)



▲ 展示風景

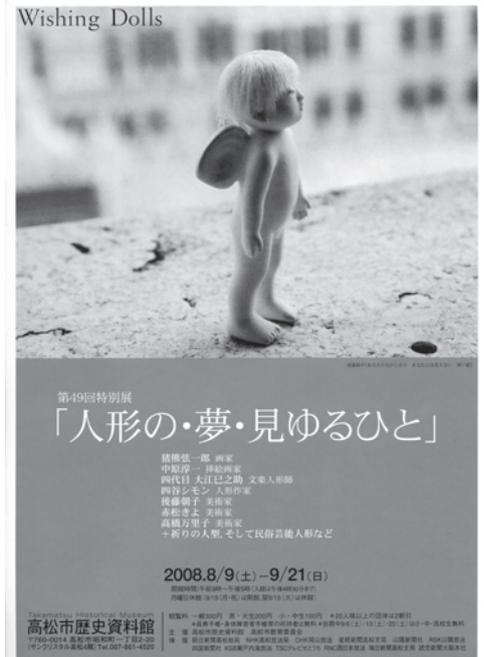
第49回特別展 人形の・夢・見ゆるひと

会 期 平成20年8月9日～9月21日(38日間)
観覧者数 1,634人(うち有料観覧者数575人)

人間の姿に似せ作られる人形は、はるか遠い昔から、人々の普遍的な祈りの表れであった。生きることへの根源的な願いや死者への悼みを具現化した人形は、現代では祭礼などの宗教や伝統的行事のほか、玩具や土産物、人形劇、そして芸術分野など様々に広がりを見せている。私たちは、聖なる領域の外に人形の存在意義を見出すようになった反面、いつの時も内なる世界へ誘うものとして人形に引き付けられてきた。

本展では、香川県ゆかりの作家として、挿絵画家・中原淳一の出発点である創作人形、生への賛歌の磁場を生み出す後藤朝子の人形インスタレーション、赤松きよの儂さを忍ばせる身体彫刻、そして猪熊弦一郎コレクションのカチナドール及びそれら人形とアリゾナにインスピレーションを受け制作された猪熊のスケッチも紹介した。また、名人と謳われた徳島の四代目大江巳之助の文楽人形頭、淡翁荘(坂出市)でも常設されファンを魅了し続ける四谷シモンの少年人形、そして幼い頃遊んだ人形をモチーフに写真作品を発表する高橋万里子も参加した。

また、当館所蔵の型代や副葬玩具のほか、人形芝居の場面を写した衣装人形や招福芸能に遣われた恵比寿人形など、過去に遡る人形と人間の結びつきにも迫った。「人形の見る夢」、そして、それらを造形する「人間の見る夢」を綴り、変遷する世界を映し出すものとしての人形たちに我々が抱く夢を垣間見た。



▲ポスター



▲図録

印刷物

- ・ポスター(B2)
- ・チラシ(A4)
- ・図録(A4・24頁)

主な展示資料

- ・猪熊弦一郎 スケッチブック『アリゾナとカチナドール』より<カチナドール> 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館蔵
- ・中原淳一《人形》1931年 株式会社ひまわりや蔵
- ・中原淳一 表紙原画『ひまわり』第4巻第3号 1950年 株式会社ひまわりや蔵
- ・四代目大江巳之助《文楽着付人形・お弓》1991年 徳島県立博物館蔵
- ・四谷シモン《機械仕掛の少年2》1984年 徳島県立近代美術館蔵
- ・後藤朝子《月》2002年 作家蔵
- ・赤松きよ《nontitle》2004年 作家蔵
- ・高橋万里子《月光画》2008年 作家蔵
- ・《竹田人形(潮汲み)》江戸時代 香川県立ミュージアム蔵
- ・《副葬玩具》江戸時代 当館蔵

関連イベント

- 講演会 午後1時30分～/サンクリスタル高松3F視聴覚ホール
8月9日(土)吉原美恵子(徳島県立近代美術館主任学芸員) × 後藤朝子(出品作家) / 参加者延べ40人
9月13日(土)赤松きよ(出品作家) × 高橋万里子(出品作家) / 参加者延べ17人
- ギャラリートーク
特別展示室において/午後2時～/8月30日/毛利直子(展覧会担当者) / 参加者延べ6人
- ワークショップ「人形げきをつくらう!」
河野美恵子さん(人形劇団「ドリーム」主宰者)を講師にお迎えし、グループごとに人形げきを制作し上演。影絵げきやペープサートなど、いろいろな人形げきを楽しんだ。
8月31日(日)・9月7日(日)/午前10時～午後3時/サンクリスタル高松3F 第1集会室および視聴覚ホール / 参加者26人(小学生以上)



▲展示風景



▲「人形げきをつくらう!」

第50回特別展 近代をつくった大工棟梁 —高松の大工久保田家とその仕事—

会 期 平成20年11月15日～12月28日(38日間)
観覧者数 1,188人(うち有料観覧者数361人)
協 力 神奈川大学建築史研究室

平成19年、高松市在住の久保田家より、建築図面をはじめとする膨大な古文書などの史料をご寄贈いただき、「久保田家文書」として所蔵することとなった。同文書に関する調査は平成17年より始まり、本展が開かれるまでには、実に足かけ3年の月日を経ている。

久保田家は初代専五郎から19代富五郎に至るまで、時代は江戸時代後期から昭和30年代にかけて代々宮大工として栄えた家である。その仕事の範囲は、高松市内はもとより、香川県内・果ては全国にまで広がり、また、建築物の種類も神社仏閣をはじめ学校や病院などの公共建物に至るまで多種類に及んでいる。

建築図面に関する歴史からのアプローチは、前例がほとんど見られない。神奈川大学建築史研究室内の西和夫教授をはじめとする建築史の先生方のご協力を得、また、神奈川大学の院生をはじめとする学生のみなさんには建築図面をもとに模型を作製していただいた。建築図面(史料)・模型(資料)・現存写真(資料)の組み合わせにより、入館者にわかりやすく親しみやすい展示内容とした。

主な展示資料

- ・正面玄関及断面図(香西小学校)
- ・衝立:隨身(坂出市高屋町・高家神社脇障子彫物と同じ絵様)
- ・西教寺麒麟彫物絵様
- ・総社本殿平妻十分一之図
- ・池田劇場建築工事設計図
- ・焼印「久保田組」
- ・工事経歴書
- ・書状「横浜ニテ 富五郎様」
- ・丸石邸1/50復原模型
- ・香西小学校玄関部約1/2復原模型

関連イベント

- 開展式・オープニングトーク
11月15日(土)午前9時30分/特別展示室において/西和夫(神奈川大学教授) /参加者:33人
- ギャラリートーク
特別展示室において/午後2時～/11月15日・12月7日 /大西由子(展覧会担当者)/延べ参加者30人
- シンポジウム
11月22日(土)午後1時30分～/3階視聴覚ホール
基調講演・パネラー:西和夫(神奈川大学教授)・谷直樹(大阪市立大学教授)
・三浦要一(高知女子大学准教授)・水沼淑子(関東学院大学教授)・山田由香里(長崎総合科学大学准教授)・大西由子(高松市歴史資料館)/参加者:140人



▲ ポスター



▲ 図録

印刷物

- ・ポスター(B2)
- ・チラシ(A4)
- ・図録(A4・56頁)



▲ 展示風景



▲ シンポジウム

第51回特別展 資料館がすいぞくかん!? 造形にみる水のいきものたち

会 期 平成21年7月25日～9月6日(38日間)
観覧者数 1,312人(うち有料観覧者数433人)

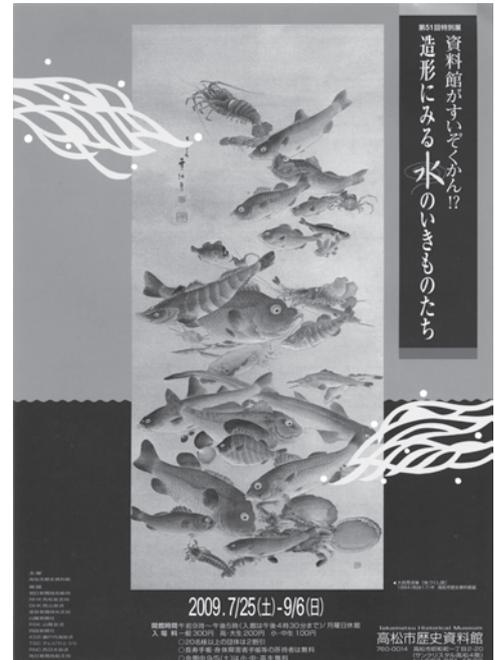
夏休みのレジャーの舞台として人気の高い海や川に暮らす生き物をモチーフに用いた作品や資料を紹介した。

金刀比羅宮に残る高橋由一の秀逸作品「鱈梅花」をはじめ、高松藩の5代藩主・松平頼恭がつくらせた図譜のうち最も有名な「衆鱗図」(香川県立ミュージアム保管)に描かれた魚介、三木文柳「鮮魚図」や大西雪溪「魚づくし図」などの掛幅や、歌川国芳「大物之浦海底之図」といった浮世絵で表現された物語や歴史のひとコマ、そして金工や漆芸という素材によるユニークな蛙や鯰などに新鮮な驚きを禁じえない。

また、海辺の生物をイメージし制作を続ける四宮龍(高松市)のポップな作品、そして絵巻物師・東野健一(神戸市)が讃岐のおはなし「あたごの浦」をベースに描いた『月夜の浜の芸くらべ』も紹介した。

- 主な展示資料**
- ・ 高橋由一《鱈梅花》 明治10年(1877) 金刀比羅宮蔵
 - ・ 《衆鱗図》第2帖 江戸後期 高松松平家歴史資料(香川県立ミュージアム保管)
 - ・ 三木文柳《鮮魚図》 天明5年(1785) 当館蔵
 - ・ 歌川国芳《讃岐院眷属をして為朝をすくふ図》 嘉永元～4年(1848～51) 当館蔵
 - ・ 北原千鹿《蛙壁掛》 1934年 香川県立高松市芸高等学校蔵
 - ・ 音丸耕堂《彫漆双鯰之図料紙箱》 1934年 高松市美術館蔵
 - ・ 四宮龍《Seaman No.3》 2003年 作家蔵
 - ・ 東野健一 絵巻物《月夜の浜の芸くらべ》 作家蔵

- 関連イベント**
- トーク・トーク・トーク!
 - ・ 絵巻物芝居「月夜の浜の芸くらべ」
7月25日(土)①正午～②午後1時30分～③午後3時～(各30分程度)／特別展示室内／パフォーマー:東野健一(出品作家)／参加者延べ50人
 - ・ 展覧会で知るおさかな教室
7月26日(日)午後2時～3時／特別展示室ほか／ゲストスピーカー:米山昇(高松市農林水産課課長)／参加者25人(小学生から大人まで)
 - ・ 講演会『「衆鱗図」に見る魅力』
8月29日(土)午後1時30分～／3階視聴覚ホール／講師:松岡明子(香川県立ミュージアム専門学芸員)／参加者50人
 - ギャラリートーク(特別展示室／8月の毎日曜日午後2時～)
 - 8月5日・12日／谷真琴・中條亜希子(展覧会担当者)／参加者延べ31人
 - 8月23日・8月30日／歴史資料館サポーター／参加者延べ22人
 - ワークショップ(3階集会室／事前申し込み制)
 - ・ 「おり紙で水の生き物をつくろう!」
8月1日(土)①午前10時～正午、②午後1時～4時／講師:坂本整子(日本折紙協会香川支部支部長)／参加者17人
 - ・ 「Seaman(海の人)に変身!」
8月22日(土)午後1時～4時／講師:四宮龍(出品作家)／参加者20人(子どもから大人まで)
 - ブラットとホーム資料館(特別展示室ほか／観覧券必要)
 - 8月8日(土)・9月5日(土)午後1時～4時
 - 展覧会に関係し、「おさかなを見る・知る・楽しむ」サイトを資料館フロアに設営し、来館者に参加を仰いだ。(内容)展覧会を探検するよ!・おり紙でおさかなを作って、釣ってみよう!・おさかなカルタで遊ぼう!・新しい魚類図鑑をつくろう!など／参加者延べ138人



▲ ポスター



▲ 解説シート

- 印刷物**
- ・ ポスター(B2)
 - ・ チラシ(A4)
 - ・ 解説シート(15×14cm)



▲ 展示風景



▲ 「Seamanに変身!」



▲ ブラットとホーム資料館

第52回特別展 対決・協調 カップルズ

会 期 平成21年11月14日～12月27日(38日間)
観覧者数 1,411人(うち有料観覧者数322人)

我々は、生まれたその時から様々な人間関係のなかで人生を送り、やがてこの世界から一人旅立つ運命にある。人生に長短あり、数々の関係性(親子、兄弟姉妹、友人、仲間、カップルや夫婦など)の形も距離感もその時々によって変化し、どれ一つとして同じことはないであろう。

本展では、その関係性の中から、香川ゆかりの表現者カップルにスポットを当てた。小説『二十四の瞳』の著者・壺井栄と同郷の詩人壺井繁治、ロダン唯一の日本人助手であった彫刻家の藤川勇造と17歳年下の女流画家・栄子、婦人之友社の編集者として活躍する岡内籌子と新進気鋭の画家村山知義のコンビ。また、戦後のカップルからは共に漆芸家である太田儔・太田加津子夫妻をはじめ、現代工芸の漆作家である後藤健吉と人形作家の後藤朝子、また造形作家であり美術教育者として歩む杉本公和と川崎展子、そして石の産地に暮らすアキホタタの作品を展示した。

縁あって家庭を作り共に暮らす他人同士が、表現者として仕事に、そして人間として相手にどのように向き合い、人生を歩み作品を生み出していったのか、また対決の時や協調の中から生まれ出たそれら作品や資料を紹介した。

主な展示資料

- ・ 藤川勇造《栄子像》 大正12年(1923) 香川県立ミュージアム蔵
- ・ 藤川栄子《彫刻のある窓辺》 1981年 香川県立ミュージアム蔵
- ・ 村山知義・籌子「リボンときつねとごむまりと月」(原画および原稿) 大正15年(1926) 婦人之友社蔵
- ・ 壺井繁治「栄宛書簡」 1932年6月23日付 個人蔵
- ・ 壺井栄「繁治宛書簡」 1930年12月19日付 個人蔵
- ・ 太田儔《監胎蒟醬 茶箱 浅春》 2004年 作家蔵
- ・ 太田加津子《蒟醬 硯箱》 1969年 高松市美術館蔵
- ・ 後藤健吉《浮かぶ島》 2006年 作家蔵
- ・ 後藤朝子《明後日の服》 2009年 作家蔵
- ・ 杉本公和《2次元と3次元のはざまにて(七夕)》 2009年 作家蔵
- ・ 川崎展子《RIVER》 2009年 作家蔵
- ・ アキホタタ《Fantasia・んWalk》 2009年 作家蔵

関連イベント

- トーク・トーク・トーク! (午後1時30分～/3階視聴覚ホール)
 - ・ アーティスト・トーク
 - 11月14日(土) 後藤健吉(漆芸家)×杉本公和(美術家)/参加者60人
 - 11月23日(月・祝) 太田儔(漆芸家)×アキホタタ(彫刻家)/参加者30人
 - ・ 学芸員リレートーク「昭和初期における香川出身の芸術家について」
 - 11月29日(日) 田口慶太(香川県立ミュージアム)×毛利直子(当館学芸員)/参加者12人
- ワークショップ(3階集会室/事前申し込み制)
 - ・ 「カップルたちのオブジェを作ろう!」
 - 12月6日(日)午後1時～3時/講師:アキホタタ(出品作家)/子どもから大人までのペアー15組/参加者26人
 - ・ 「カップルのかたちをつくろう!一ふたりでつくる絵」
 - 12月13日(日)午後1時～3時/講師:川崎展子(出品作家)/参加者20人
- ギャラリートーク(特別展示室/12月の毎土曜日および23日(水・祝)午後2時～)
 - 12月5日・12日/河西由美子・平松美晴(展覧会担当者)/参加者延べ29人
 - 12月19日・23日・26日/歴史資料館サポーター/参加者延べ29人



▲ ポスター



▲ 図録

印刷物

- ・ ポスター(B2)
- ・ チラシ(A4)
- ・ 図録(A4・32頁)



▲ 展示風景



▲ 学芸員リレートーク

第53回特別展 民具と生活、それぞれの四季

会 期 平成22年2月6日～3月22日(39日間)
観覧者数 572人(うち有料観覧者数180人)

かつて、私たちの生活の中で用いられていたさまざまな道具。そのひとつひとつの造形は美しくもあり、また色合いや手触り感、風合いが暮らしに溶け込み、人々との間に調和を見せていた。手作りされたそれらの道具は、使い込んで手入れがなされ、時には何世代にもわたって、かけがえのない品々として大事に受け継がれ、家々や地域やその時代の生活文化を形成してきた。しかし、近代化が押し進められる中、日本では伝統的な生活用具が次々と姿を消してゆく。近年、環境問題への関心が高まり、これらの民具は、日本の風土や生活に即した道具としてその良さが見直されつつある。21世紀を生きる私たちこそ、現代社会の中であって用途を失いながらもひっそりと佇む民具を介して、伝統や継承の心、そして道具を生み出した先人の智恵や創造力の豊かさを知るべきではないだろうか。

本展では、日本の四季折々に見られたであろう人々の暮らしを、主に当館所蔵の民具資料約150点で綴った。また、香川の特産品である和三盆糖による和菓子づくりに欠かせない菓子木型や、美しい文様の讃岐かがり手まりなども紹介した。



▲ ポスター



▲ 図録

印刷物

- ・ ポスター(B2)
- ・ チラシ(A4)
- ・ 図録(A5横・24頁)

主な展示資料

- ・ 《結納熨斗》《祝儀用指樽》《野弁当風呂》《田植定規》《苗目籠》
《万石通し》《飯櫃と飯畚》《ワッパ[メンパ]》《炬燵檜と素焼炬燵》
《糸車》《豆腐製造具と豆腐籠》 当館蔵
- ・ 《踏車[水車]》 香南歴史民俗郷土館蔵
- ・ 《唐箕》 香南歴史民俗郷土館蔵
- ・ 《菓子木型》 市原吉博氏蔵
- ・ 《讃岐かがり手まり》 讃岐かがり手まり保存会蔵

関連イベント

- ワークショップ(3階集会室/事前申し込み制)
 - ・ 「バレンタインディに菓子木型でおかしをつくろう!」
季節の香りを日本人に届け続けてきた和菓子。その舞台裏で連続と受け継がれてきた木型の伝統を、「和三盆干菓子づくり」を通して楽しみながら学んだ。
2月14日(日)①午後1時～②午後2時～③午後3時～(各30分程度)/講師:和三盆体験ルーム「豆花」主宰 上原あゆみ他/参加者延べ50人(子どもから大人まで)
 - ・ 「心を込めて、かがり手まりをつくろう!」
讃岐三白のひとつの綿を生かし、草木染めした木綿糸を使ったかがり技法による「讃岐かがり手まり®」。自然の暖かみを持つ色合いの手まり作りに挑戦した。
3月14日(日)午後1時～3時30分/講師:讃岐かがり手まり保存会会員/参加者20人
- ギャラリートーク(特別展示室/会期中の日曜日/午後2時～)
 - 2月7日・3月7日/大西由子(展覧会担当者)/参加者延べ26人
 - 2月14日・21日・28日・3月14日・21日/歴史資料館サポーター/参加者延べ43人



▲ 展示風景



▲ 「心を込めて、かがり手まりをつくろう!」

3 テーマ展(収藏品展など)

20 年度

収藏品展

れきしに出会う—新収藏品で知る人と風景—

■ 会 期

平成20年4月19日～6月1日(38日間)

■ 観覧者数

673人(うち有料観覧者数214人)



▶ ポスター

近年の収藏品の中から32点を選び、大きく4つのテーマに分けて、高松ゆかりの人物や風景などを紹介した。「藩主に会う」では、高松藩を治めた生駒家や松平家の人々の書画、「源平に会う」では、源平合戦を題材とした書籍や錦絵、「文人に会う」では、讃岐の文人の双璧として称えられる長町竹石の山水画と後藤漆谷の書など、「名所に会う」では、栗林公園や屋島などの観光名所の絵図や絵葉書などの資料を展示した。また、当館資料を外装デザインに使用したドラムの寄贈を受けたことから、本図である《源平合戦図屏風》もあわせて特別展示した。

主な展示資料

- ・《松平頼重書状》 寛永15～明暦元年(1638～55)
- ・長町竹石筆《山水図》 寛政5年(1793)
- ・《[奈良絵本] 八島 中・下》 江戸時代前期
- ・《讃岐高松栗林公園 南庭絵はかき》 大正時代
- ・ヤマハ株式会社 40周年記念ドラム 和紙モデル

関連イベント

■ ギャラリートーク

5月11日(日)午後2時～/河西由美子(展覧会担当者)/特別展示室/参加者12人

共催展 第5回四国地区埋蔵文化財センター巡回展
発掘へんろ—遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波

■ 会 期

平成21年1月10日～2月8日(26日間)

■ 観覧者数

620人(うち有料観覧者数111人)



▶ ポスター

四国内の5つの埋蔵文化財センターが共同で発掘調査の成果を展示・紹介する巡回展。テーマは「遺跡にみる国際交流」。

関連イベント

■ ギャラリートーク

1月17日(土)・24日(土)午後2時～/北山健一郎(香川県埋蔵文化財センター主任文化財専門員)・中村茂央(高松市文化財課非常勤嘱託職員)/特別展示室/参加者延べ26人

収藏品展

長町竹石 文人画の世界

■ 会 期

平成21年2月14日～3月29日(38日間)

■ 観覧者数

855人(うち有料観覧者数186人)



▶ ポスター

高松城下南新町の薬種商の家に生まれた長町竹石(1757-1806年)は、特に山水画を得意とし、郷里讃岐の風景や、中国の水墨画にならった幽玄な山水画を生涯に数多く描いた。後に藩主とともに江戸に出て、画家としての名声を得た竹石の絵を多くの人が求め、贋作も出回るほどであったと伝えられている。

本展では当館の収藏品から竹石の作品を紹介し、文人画家としての生涯と作品の魅力を辿った。

主な展示資料

- ・《蘭亭曲水図》 寛政5年(1793)
- ・《松下鼓琴図》 江戸時代
- ・《飲中八仙図巻》 江戸時代
- ・《讃岐諸大家書画合作》 寛政11年(1799) 後藤漆谷・梶原藍渠・亀井東溪・山田鹿庭・山田呆々との合作
- ・《讃岐十四景図巻》 江戸時代
- ・《小菘瀑布真景図》 江戸時代
- ・《竹梅園図》(双幅) 江戸時代

関連イベント

■ ギャラリートーク

2月22日(日)・3月8日(日)午後2時～/堀純子(展覧会担当者)/特別展示室/参加者延べ18人

21 年度

企画展 高松市内の遺跡発掘調査速報展
弥生土器に見るムラの暮らし

■ 会 期

平成21年4月18日～5月31日(38日間)

■ 観覧者数

507人(うち有料観覧者数187人)



▶ ポスター

弥生土器に残された痕跡や出土時の状況などから、弥生時代のムラの暮らしが明らかになっている。それらの成果に拠りながら、近年、高松市内で発掘された弥生時代の集落跡や出土した弥生土器について紹介した。

関連イベント

- ギャラリートーク
4月9日(日)・5月17日(日)午後1時30分～／渡邊誠(高松市文化財課文化財専門員)／特別展示室／参加者延べ33人

企画展

旅する文人 細川林谷 その書画と篆刻

■ 会 期
平成21年9月19日～11月1日(38日間)

■ 観覧者数
1,443人(うち有料観覧者数352人)



▶ ポスター

18世紀末から幕末にかけて日本各地には個性的な文人が数多く登場し、詩書画や篆刻の制作を通じて交流を重ねた。その一人、讃岐出身の細川林谷は、安永9年(1780)寒川郡石田村(現在のさぬき市石田東)に生まれ、同時代の讃岐で活躍した長町竹石、後藤漆谷、阿部良山などととも文人芸術の隆盛期を築いた。特に篆刻においては高い名声を得、頼山陽をはじめ多くの文人たちが林谷の印を絶賛し、作印を求めたと伝えられている。

若くして郷里を離れた林谷はまた、旅に生きた文人でもあった。南は九州鹿児島から北は東北仙台まで、林谷が足を運んだ場所は全国におよび、各地の風土・歴史に関心をよせた数多くの作品を生み出した。

当館の収蔵品を中心に、印聖とうたわれ、旅の中に風雅を求めた文人細川林谷の書画・篆刻作品を展示紹介した。

主な展示資料

- ・『詩鈔印譜』 弘化3年(1846)刊
- ・《秋景山水図》 文化元年(1804)
- ・《書画合作》 文化3年(1806) 個人蔵
- ・《紀遊漫画》 江戸時代
- ・《馬関山水図》 文化7年(1810)
- ・《月ヶ瀬探梅詩画帖》 天保3年(1832)
- ・《自画賛墨竹図巻》 天保7年(1836)
- ・《竹石図》 天保2年(1831) 久家暢斎蔵

関連イベント

- ギャラリートーク
10月4日(日)・18日(日)午後2時～／堀純子(展覧会担当者)／特別展示室／参加者延べ17人

4 ロビー展

20 年度

- 01 子どもに願うこと 3/25～5/11
～子授け・安産祈願から節句のお祝いまで～
今も昔も変わらぬ、子どもに寄せる想いのこもった様々な縁起物や玩具などを紹介。(企画:堀純子)
- 02 鑑(かがみ)を読む 5/13～7/6
人の姿やものの形を映し出す道具である「鑑」という字が持つ意味をキーワードに様々な歴史資料を紹介。(企画:堀純子)
- 03 郷土玩具になった 水辺のいきもの 7/8～8/31
私たちが「水辺のいきもの」たちとの歴史の深さを表す郷土玩具を、その信仰や伝説などととも紹介。(企画:堀純子)
- 04 翁(おきな)と姫(おうな) 9/2～9/21
翁と姫が登場する伝説や、長寿を象徴する縁起物、不老不死に関する伝承などの資料を展示し、長寿に寄せた想いの歴史を紹介。(企画:堀純子)
- 05 特別展ができるまで 11/11～12/28
—久保田家と資料館のしごと—
特別展が開かれるまで、資料館ではどんなことが行われているのか。普段、一般には知られることのない資料館の裏側を紹介。(企画:大西由子)
- 06 干支のおはなし 1/6～2/8
新年のシンボルとしておなじみの干支。知っているようで、意外と知られていない、干支と私たちの歴史や関係性を玩具や絵馬で探る。(企画:堀純子)
- 07 縁を結ぶ 2/10～3/22
女子の健康と幸福を願う雛祭りのシンボル、雛人形の歴史とその変遷を紹介するとともに、「対になる形」をした人形や伝統工芸品を展示。(企画:堀純子)

21 年度

- 01 福をよぶ顔 商売繁盛 3/24～4/26
商売繁盛にまつわる全国各地の縁起物や郷土玩具を通じて、大黒さんやえびすさんなど「福」を象徴するいろいろな「顔」を紹介。(企画:堀純子)
- 02 郷土玩具で知る 讃岐の祭礼・日本の祭礼 4/28～5/31
古来より私たちの精神生活と深く結びついた様々な祭礼。郷土玩具の題材としても造形化される各地の祭礼や伝統芸能を紹介。(企画:堀純子)
- 03 夏の涼風 7/22～8/30
実用性があり装飾品としても楽しめるうちわや、水の中を泳ぐ姿が涼しげな金魚をかたどった郷土玩具など、夏の風物詩を紹介。(企画:河西由美子)
- 04 月とうさぎとたぬき 9/1～11/1
月に関係する物語や説話を題材にした月岡芳年の錦絵「月百姿」をはじめ、月に付き物のうさぎやたぬきの郷土玩具を展示。(企画:河西由美子)
- 05 古写真が語る「たかまつ」 11/2～11/30
高松の中心部「街(まち)」。田町、南新町、トキワ街、丸亀町、ライオン通り、兵庫町、片原町などの商店街を撮った写真を展示。(企画:大西由子)
- 06 古写真が語る「たかまつ」の街・市街編 12/1～12/27
再開発前の高松駅、多くの野球選手が活躍した中央球場、今も変わらぬまっすぐな中央通りなど、今と昔の街の写真を展示。(企画:大西由子)
- 07 縁起物 1/5～1/31
—「にっぽん」と「たかまつ」のお正月—
平成22年の干支である寅の置物を中心に、羽子板や拙楽など新年を迎える際の縁起物と、ちよっと昔の高松のお正月風景写真を展示。(企画:大西由子)
- 08 福をよぶダルマさん 2/2～3/31
合格祈願、商売繁盛、招福開運などの縁起物として、私たちになじみの深いダルマさんや、ダルマを使った玩具を展示紹介。(企画:中條亜希子)

II 教育普及

「開かれた資料館」をめざし、当館では教育普及に積極的に取り組み、資料を通して市民との対話につとめている。そのひとつに、郷土の歴史をより楽しみながらよく知るために、学校教育との連携を図り、市内の小中学生を対象に行うサンクリスタル学習を実施している。また、生涯学習の場として、「夏休みこども歴史講座」をはじめ様々な講座などを開催するとともに、博物館実習による学生の受け入れをし、学芸員の養成に寄与している。

1 サンクリスタル学習

当館(4F)は、サンクリスタル高松という愛称で呼ばれている建物の中に、図書館(1・2F)と菊池寛記念館(3F)と共にある複合館である。この複合館という利点を生かし、より充実した学習内容と効果をめざすため、市内の小中学生を対象とした「サンクリスタル学習」を平成5年度から当館が事務局となり実施している。

展示資料を活用し、分かりやすく歴史を伝え、親しんでもらうために、また、小学生にも興味を持って資料に接することができるように、学習の際の補助的な教材として「サンクリスタル学習のしおり」を作成している。また、展示解説の際には、校区にある遺跡や古墳などの話を織り交ぜ、興味深い歴史学習ができるように努めている。

サンクリスタル学習を実施するにあたり、各小学校代表教諭を集めて説明会を開くとともに、実際の学習実施前には、参加学年担当教諭を交え、綿密な事前打合せを行っている。なお、必要に応じて各小学校との交通手段には大型バス等の用意もしている。

サンクリスタル学習参加校

| 平成 20 年度 | | | 平成 21 年度 | | |
|----------|----------|------------|----------|----------|------------|
| 6月 | 四番丁小学校 | 23名 | 6月 | 四番丁小学校 | 23名 |
| | 一宮小学校 | 134名 | | 前田小学校 | 41名 |
| | 中央小学校 | 109名 | | 木太小学校 | 81名 |
| | 木太小学校 | 87名 | | 亀阜小学校 | 42名 |
| | 林小学校 | 76名 | | 檀紙小学校 | 87名 |
| | 木太南小学校 | 109名 | | | |
| 7月 | 大野小学校 | 97名 | 7月 | 大野小学校 | 88名 |
| | 仏生山小学校 | 93名 | | 鬼無小学校 | 50名 |
| | 鬼無小学校 | 42名 | | 古高松小学校 | 121名 |
| | 太田南小学校 | 197名 | | 古高松南小学校 | 87名 |
| | 植田小学校 | 21名 | | 太田南小学校 | 175名 |
| 9月 | 浅野小学校 | 92名 | 9月 | 牟礼小学校 | 63名 |
| | 木太北部小学校 | 88名 | | 川添小学校 | 92名 |
| | 川添小学校 | 84名 | | 屋島東小学校 | 36名 |
| | 屋島東小学校 | 24名 | | 浅野小学校 | 93名 |
| | 庵治小学校 | 54名 | | 中央小学校 | 143名 |
| | 牟礼小学校 | 57名 | | 仏生山小学校 | 80名 |
| | 檀紙小学校 | 51名 | | 植田小学校 | 25名 |
| | 下笠居小学校 | 56名 | | | |
| 10月 | 香西小学校 | 95名 | 10月 | 香南小学校 | 74名 |
| | 松島小学校 | 59名 | | 庵治小学校 | 38名 |
| | 花園小学校 | 50名 | | 香西小学校 | 117名 |
| | 川岡小学校 | 43名 | | 屋島西小学校 | 105名 |
| | 川島小学校 | 119名 | | 多肥小学校 | 107名 |
| | 古高松小学校 | 133名 | | | |
| 11月 | 香南小学校 | 77名 | 11月 | 川島小学校 | 109名 |
| | | | | 円座小学校 | 111名 |
| 12月 | 円座小学校 | 113名 | | 林小学校 | 72名 |
| | 香川大附属小学校 | 83名 | 12月 | 香川大附属小学校 | 130名 |
| | 古高松南小学校 | 64名 | | 木太北部小学校 | 116名 |
| 1月 | 屋島小学校 | 113名 | 1月 | 弦打小学校 | 94名 |
| | 東植田小学校 | 35名 | | 屋島小学校 | 119名 |
| | 弦打小学校 | 103名 | | | |
| 2月 | 多肥小学校 | 130名 | 2月 | 太田小学校 | 161名 |
| | 十河小学校 | 78名 | | 十河小学校 | 100名 |
| | 太田小学校 | 148名 | | 花園小学校 | 63名 |
| | 鶴尾小学校 | 36名 | | 鶴尾小学校 | 38名 |
| | | | | | |
| | | 36校 2,968名 | | | 33校 2,881名 |

2 講座

■ 主催事業

夏休みこども歴史講座

郷土高松の歴史をもっと知りたい・学びたいと思う小学生(対象:3~6年生)のために、毎年テーマを絞り、実地見学や調べのまとめ、発表までをサポートする講座を開催した。

20年度 石清尾山古墳群について調べよう!

峰山町にある石清尾山古墳群には、200基以上の古墳が存在し、全国的にも珍しい石を積み上げた積石塚や形が特徴的な双方中円墳などもある。身近にある貴重な古墳に親しんでもらう良い機会になればと考えテーマを決定した。

期間:7月24日・25日・29日・31日
8月5日

企画担当:平松美晴・谷真琴
参加者:延べ44人



21年度 源平屋島合戦について調べよう!

高松市東部にある屋島・牟礼周辺には、源平合戦ゆかりの史跡が数多く存在している。テレビや書籍でも度々紹介されている有名な戦いが自分たちの住んでいるすぐ近くであったことを知っていただきたくてテーマを決定した。

期間:7月28日・29日・31日
8月4日・6日

企画担当:平松美晴・谷真琴
参加者:延べ87人



歴史クイズにチャレンジしよう!

春休み・夏休み・冬休みの間、中学生以下を対象に、常設展示にちなんだ歴史クイズで歴史や資料館に親しんでもらった。

20年度 企画担当:平松・谷 参加者:延べ977人
21年度 企画担当:平松・谷 参加者:延べ1,132人

■ サポート事業

20年度 サポーター募集および養成講座

世代を超えて市民に親しまれる文化施設となるために、資料館活動を応援してくれるサポーターを募集。14名の市民がサポーターとして、次年度に向け、「見る」「知る」「楽しむ」をキーワードにした特別展で様々な教育プログラムのための養成講座に参加。

| 講座名 | 期日 | 講師 |
|---|-------|----------|
| 開講および資料館概要説明・施設見学(菊池寛記念館含む) | 3月8日 | 宮本弘・毛利直子 |
| 収藏品展「長町竹石」ギャラリートーク(以下GT)・見るためのウォーミングアップ | 3月22日 | 堀純子・毛利直子 |

21年度 サポーター養成講座および活動

前年度登録したサポーター14名が、「見る」「知る」「楽しむ」をキーワードにした特別展で様々な教育プログラムのための養成講座に参加。ギャラリートーク(展示品解説)やワークショップのお手伝いなど活動を開始した。

| 講座名 | 期日 | 講師 |
|--|-------|-----------------------|
| サンクリスタル学習のデモンストレーション・見るためのウォーミングアップ | 4月5日 | 平松美晴・毛利直子 |
| 高松市美術館「加山又造展」GT 見学およびボランティア交流 | 4月19日 | 毛利直子・牧野裕二(高松市美術館学芸員) |
| テーマ展 GT 参加・考古のワークショップのデモンストレーション | 5月10日 | 渡邊誠(高松市文化財課文化財専門員) |
| 高松市歴史資料館のキャッチフレーズを考えよう。ローカルの魅力をキャッチコピーで表現! | 5月24日 | 山本政子(やまもも制作室・コピーライター) |
| 菊池寛記念館文学展 GT および教育普及活動の紹介 | 6月7日 | 池内舞(菊池寛記念館嘱託職員) |
| 博物館ボランティアの事例とその可能性 | 6月21日 | 鬼本佳代子(財団法人大原美術館主任学芸員) |

古文書講座

実際の古文書を題材に取り上げ、参加者と一緒に読むなど、古文書に親しむ講座を開催した。

講師:三谷敏雄(元高等学校教諭)

20年度 古文書に暮らしをさぐる vol.14
8月21日・9月18日・10月16日・11月20日・1月22日・2月19日・3月26日
参加者:7回延べ446人

21年度 古文書に暮らしをさぐる vol.15
8月20日・9月17日・10月15日・11月19日・1月21日・2月18日・3月25日
参加者:7回延べ367人



出前資料館

20年度
7月14日/高松市立牟礼北小学校/参加者480人
ちゃぶ台・蓑といった生活用具など37点(石の民俗資料館資料、歴史資料館資料)を持ち込み、それらに自由に触れてもらい、昔の生活を体験した。

21年度
3月16日/高松市立牟礼南小学校/参加者260人
おひつ・湯たんぼといった生活用具など38点(石の民俗資料館資料、歴史資料館資料)を持ち込み、それらに自由に触れてもらい、昔の生活を体験した。

II 教育普及

| 講座名 | 期日 | 講師 |
|--|--------------------------------------|------------------------------|
| 第 51 回特別展「資料館がすいぞくかん!？」に向けて準備 資料館における創造的学びと遊び | 7月5日 | 毛利直子・谷真琴 |
| | 7月12日 | 坂本整子(日本折紙協会香川支部支部長) |
| 活動名 | 期日 | 内容 |
| ■ 第 51 回特別展 | | |
| 「月夜の浜辺の芸くらべ」トーク | 7月25日 | 東野健一(絵巻物師・出品作家)の補助 |
| ワークショップ「おり紙で水の生き物をつくろう!」 | 8月1日 | 坂本整子(日本折紙協会香川支部支部長)の補助 |
| ブラットフォーム資料館 | 8月8日・9月5日 | 鑑賞と遊びを通して展覧会を見る・知るプログラムの企画実施 |
| ワークショップ「Seaman(海の人)に変身!」 | 8月21日 | 四宮龍(美術家・出品作家)の補助 |
| ギャラリートーク | 8月23・30日(午後2時~) | 展覧会場にて展示解説 |
| ■ 第 52 回特別展 | | |
| ワークショップ「カップルたちのオブジェを作ろう!」 | 12月6日 | アキホタタ(出品作家・彫刻家)の補助 |
| ワークショップ「カップルのかたちをつくろう!」 | 12月13日 | 川崎展子(出品作家・美術家)の補助 |
| ギャラリートーク | 12月19日(午後2時~) 23・26日(午前11時/午後2時~) | 展覧会場にて展示解説 |
| ■ 第 53 回特別展 | | |
| ギャラリートーク | 2月14・21・28日・ 3月14・21日(午後2時~) | 展覧会場にて展示解説 |

■ 共催事業

20 年度

| 講座名 | 期日 | 講師 | 参加人数(人) |
|-----------------------------------|--------|---------------------|---------|
| ■ 讃岐村塾 | | | |
| 小西和と瀬戸内海 | 6月28日 | 津森明(高松短期大学教授) | 29 |
| 林芙美子と高松 | 7月26日 | 田山泰三(英明高等学校教諭) | 19 |
| 国分寺の史跡めぐり | 8月23日 | 鎌田良博(高松市文化財課課長補佐) | 21 |
| 特別史跡讃岐国分寺跡と諸国の国分寺跡 (屋島カレッジと共催) | 9月27日 | 渡邊誠(高松市文化財課文化財専門員) | 29 |
| 町あるき・いろいろ (屋島カレッジと共催) | 10月25日 | 渋谷啓一(香川県観光振興課専門学芸員) | 14 |
| 久保田家文書の世界 (屋島カレッジと共催) | 11月22日 | 西和夫(神奈川大学教授) | 140 |
| 播磨の古寺と日本三奇をたずねて(現地講座) | 1月24日 | | 45 |
| 灯台と水仙の里・男木を歩く | 2月28日 | | 17 |
| 弘憲寺 400 年 | 3月21日 | 長尾恵證(弘憲寺名誉住職) | 83 |

21 年度

| 講座名 | 期日 | 講師 | 参加人数(人) |
|------------------------------|-------------|--|---------|
| ■ 讃岐村塾 | | | |
| 礼節と世相 | 5月23日 | 津森明(高松短期大学教授) | 27 |
| 今なぜ戦国時代なのか | 6月27日・7月25日 | 秋山忠(元高等学校校長) | 79 |
| 『衆鱗図』に見る魅力(第 51 回特別展事業と共催) | 8月29日 | 松岡明子(香川県立ミュージアム専門学芸員) | 50 |
| 讃岐の漢学者たち | 9月26日 | 田山泰三(英明高等学校教諭) | 15 |
| 讃岐国府跡を訪ねる | 10月24日 | 藤井雄三(高松市文化財課課長) | 9 |
| 屋島城シンポジウム (文化財課文化財調査係と共催) | 11月28日 | 亀田修一(岡山理科大学総合情報学部教授) 村上幸雄(総社市埋蔵文化財学習の館館長) 栗岡実(岡山市教育委員会文化財課文化財副専門員) 大山真充(香川県埋蔵文化財センター所長) 山元敏裕(高松市文化財課文化財調査係長) | 170 |
| 船岡山古墳の調査成果と高松の前期古墳 | 12月26日 | 高上拓(高松市文化財課文化財専門員) | 19 |
| 備中の歴史をたずねる | 1月23日 | 山元敏裕(高松市文化財課文化財調査係長) | 34 |
| 空海 高野山開創 1200 年 | 3月6日 | 長尾恵證(弘憲寺名誉住職) | 50 |
| 栗林公園・あれこれ | 3月27日 | 藤井雄三(高松市文化財課課長) | 23 |

3 博物館実習

博物館学芸員資格取得に必要な博物館実習課程履修のため、各大学から要請のあった学生を受け入れ、博物館実習を行った。

20年度 (1次) 7月23日～25日・29日～31日 (6日間) 計4人
 (2次) 8月5日～10日 (6日間) 計2人

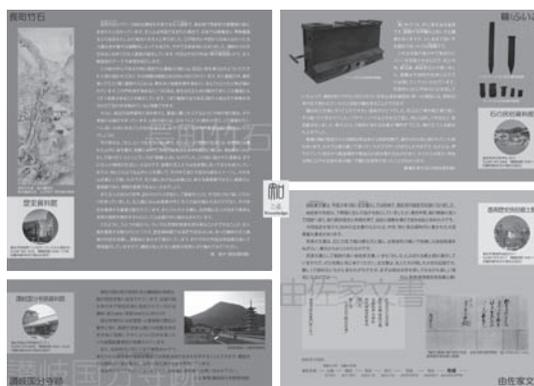
21年度 8月6日～9日・11日～13日 (7日間) 計5人

4 広報活動

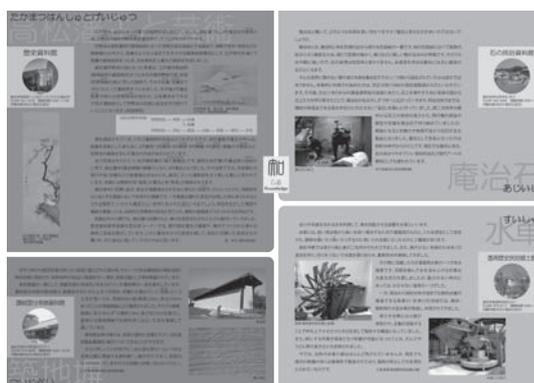
館の情報を広く周知し利用促進を図るため、リーフレット・ポスター・チラシ等を高松市内外の関係施設や観光案内所・ホテル等へ配布したほか、インターネットで各種展示・講座の案内、資料紹介、高松の歴史や文化に関する様々な情報提供を積極的に行った。

また、当館・石の民俗資料館・香南歴史民俗郷土館・讃岐国分寺跡資料館の4館の展示やイベント予定を掲載した『ほっと museum 通信』を年4回、4館の取り組みや市民との活動を伝える『高松市資料館だより maimaiko(まいまいこ)』を年1回発行した。

■ maimaiko (まいまいこ)



第2号 (2009年3月発行)



第3号 (2010年3月発行)

■ ほっと museum 通信



2008年春号

III 資料整備

資料整備は、資料館の最も基本的な機能で、かつ重要な役割を占めるものである。

資料の収集・整理・保存を行うことにより、資料館にとって最大の財産である収蔵資料に厚みを増し、これによって常設展示の展示替え、また調査研究を通して特別展示等の方法で市民に還元されるとともに、さらに貴重な文化財産を次世代に伝えていく使命を持つ。収集方法としては、購入・寄贈・寄託などがある。

1 収集

■ 購入 *のついたものは口絵に資料写真を掲載

20 年度 24件

| 分類番号 | 資料名 | 作者・著者名 | 時代・制作年 | 員数 | 全体法量 (cm) | 品質 |
|------------------|---------|-------------------|----------------|----|----------------|--------|
| 美術工芸 絵画 | | | | | | |
| O.0382 | 山水図 | 長町竹石 (画) 玄々道人 (賛) | 江戸時代 | 一幅 | 縦 171.0 横 51.3 | 紙本墨画 |
| O.0383 | 浅絳山水図 | 長町竹石 | 享和 3 年 (1803) | 一幅 | 縦 185.1 横 48.3 | 紙本墨画淡彩 |
| O.0384 | 山水図 | 長町竹石 | 文化 2 年 (1805) | 一幅 | 縦 205.1 横 46.5 | 紙本墨画淡彩 |
| O.0385 | 岩に芭蕉図 | 長町竹石 | 江戸時代 | 二幅 | 縦 205.2 横 72.4 | 紙本墨画淡彩 |
| O.0386 | 竹梅図 | | | | 縦 205.5 横 72.2 | |
| *O.0387 | 夏山水楼図 | 長町竹石 | 寛政 10 年 (1798) | 一幅 | 縦 199.1 横 67.4 | 紙本墨画淡彩 |
| O.0388 | 山水図 | 中川馬嶺 | 江戸時代 | 一幅 | 縦 202.0 横 57.8 | 紙本墨画淡彩 |
| O.0389 | 信濃川図 | 細川林谷 | 江戸時代 | 一幅 | 縦 115.8 横 43.3 | 紙本墨画淡彩 |
| O.0390 | 梅花書屋図 | 小西松塙 | 天保 12 年 (1841) | 一幅 | 縦 190.5 横 42.0 | 紙本墨画淡彩 |
| O.0391 | 童子戯遊図 | 戸塚茗溪 | 弘化 2 年 (1845) | 一幅 | 縦 193.9 横 53.0 | 絹本着色 |
| O.0392 | 草虫図画帖 | 真田円山 | 江戸～明治時代 | 一帖 | 縦 8.8 横 5.7 | 紙本着色 |
| O.0393 | 馬図 | 狩野集信 | 江戸時代 | 一幅 | 縦 173.8 横 65.0 | 紙本墨画 |
| *O.0394 | 秋景山水図 | 細川林谷 | 文化元年 (1804) | 一幅 | 縦 177.7 横 51.7 | 絹本墨画 |
| O.0395 | 軍鶏図 | 馬場景泉 | 明治～昭和時代 | 一幅 | 縦 197.3 横 53.0 | 紙本着色 |
| O.0396 | 関羽図 | 渡辺南岳 (画) 柴野栗山 (賛) | 江戸時代 | 一幅 | 縦 198.7 横 64.8 | 絹本着色 |
| O.0397 | 三清図 | 長町竹石 | 文化元年 (1804) | 一幅 | 縦 195.0 横 61.3 | 絹本墨画淡彩 |
| 美術工芸 書跡 | | | | | | |
| T.0479 | 二行書 | 後藤漆谷 | 江戸時代 | 一幅 | 縦 197.3 横 45.2 | 紙本墨書 |
| T.0480 | 一行書 | 後藤芝山 | 江戸時代 | 一幅 | 縦 198.7 横 41.4 | 紙本墨書 |
| T.0481 | 二行書 | 菊池五山 | 江戸時代 | 一幅 | 縦 160.3 横 48.5 | 紙本墨書 |
| T.0482 | 二行書 | 柴野栗山 | 江戸時代 | 一幅 | 縦 198.5 横 48.5 | 紙本墨書 |
| 歴史 書籍・刊行物 | | | | | | |
| C.2061 | 不二山 | 小島烏水著・如山堂書店発行 | 明治 38 年 (1905) | 一冊 | | |
| C.2062 | 山水美論 | 小島烏水著・如山堂書店発行 | 明治 41 年 (1908) | 一冊 | | |
| C.2063 | 山水無尽蔵 | 小島烏水著・隆文館発行 | 明治 39 年 (1906) | 一冊 | | |
| 歴史 絵図・地図 | | | | | | |
| A.0710 | 讃岐高松之城図 | | 江戸時代 | 一舗 | 縦 54.3 横 79.7 | 紙本墨書着色 |
| *A.0711 | 讃岐国絵図 | | 原本江戸時代 | 一舗 | 縦 79.0 横 212.0 | 紙本墨書着色 |

21 年度 22件

| 分類番号 | 資料名 | 作者・著者名 | 時代・制作年 | 員数 | 全体法量 (cm) | 品質 |
|------------------|-----------|------------------------|------------------------------|----|-----------------|--------|
| 美術工芸 絵画 | | | | | | |
| O.0402 | 書画合作 | 谷文晁ほか (画) 菊池五山ほか (書) | 江戸時代 | 一幅 | 縦 180.0 横 43.0 | 絹本墨書淡彩 |
| O.0403 | 墨君図 | 長尾雨山 | 大正 12 年 (1923) | 一幅 | 縦 203.0 横 72.4 | 紙本墨画 |
| O.0404 | 山水図 | 柴野栗山 | 文化 2 年 (1805) | 一幅 | 縦 111.6 横 53.8 | 絹本墨画 |
| O.0405 | 大黒天図 | 黒田綾山 | 文化 3 年 (1806) | 一幅 | 縦 158.8 横 41.8 | 紙本墨画 |
| O.0406 | 菊石図 | 玉楮拳石 (画) 合葉快堂 (賛) | 江戸～明治時代 | 一幅 | 縦 171.6 横 44.6 | 紙本墨画 |
| O.0407 | 谿山秋霽図 | 戸塚茗溪 | 弘化元年 (1844) | 一幅 | 縦 182.6 横 49.2 | 紙本墨画淡彩 |
| *O.0408 | 玉堂富貴図 | 戸塚茗溪 | 嘉永元年 (1848) | 一幅 | 縦 221.5 横 109.5 | 紙本着色 |
| O.0409 | 軽井沢図 | 細川林谷 | 江戸時代 (18 世紀末～19 世紀前半) | 一幅 | 縦 221.5 横 109.5 | 紙本墨画淡彩 |
| *O.0410 | 花鳥図 | 亀井東溪 | 江戸時代 (18 世紀末～19 世紀初頭) | 一幅 | 縦 182.2 横 60.2 | 絹本墨画淡彩 |
| O.0411 | 薔薇猫図 | 亀井東溪 | 江戸時代 (18 世紀末～19 世紀初頭) | 一幅 | 縦 202.6 横 66.0 | 紙本墨画淡彩 |
| O.0412 | 寿老人図 | 木村黙老 | 安政 2 年 (1855) | 一幅 | 縦 132.0 横 88.8 | 絹本着色 |
| O.0413 | 忠臣蔵絵巻 | 伝松平金岳 (画) 南天棒・井上円了 (書) | 不明 | 一巻 | 縦 23.7 横 626.8 | 紙本墨画淡彩 |
| O.0414 | 牛若丸図 | 英一蝶 | 不明 | 一幅 | 縦 121.8 横 71.0 | 紙本着色 |
| 美術工芸 源平関係 | | | | | | |
| Q.0042-01 | 法要の図 | 不明 | 不明 | 一点 | 縦 93.8 横 58.4 | 紙本着色 |
| Q.0042-02 | 合戦の図 | 不明 | 不明 | 一点 | 縦 94.0 横 50.2 | 紙本着色 |
| 美術工芸 書跡 | | | | | | |
| T.0517 | 二行書 | 日柳燕石 | 江戸時代 (19 世紀) | 一幅 | 縦 182.8 横 41.0 | 紙本墨書 |
| *T.0518 | 三行書「樵談一則」 | 柴野栗山 | 江戸時代 (18 世紀末～19 世紀前半) | 一幅 | 縦 202.5 横 66.3 | 紙本墨書 |
| T.0519 | 百寿書 | 佐々木文山 | 江戸時代 (17 世紀後半～18 世紀前半) | 一冊 | 縦 32.7 横 24.0 | 紙本墨書 |
| T.0520 | 二行書 | 中野武管 | 明治～大正時代 (19 世紀後半～20 世紀前半) | 一幅 | 縦 188.2 横 53.3 | 絹本墨書 |

| 分類番号 | 資料名 | 作者・著者名 | 時代・制作年 | 員数 | 全体法量 (cm) | 品質 |
|---------------|----------|--------|----------------|----|----------------|------|
| T.0521 | 一行書 | 小橋橘陰 | 不明 | 一幅 | 縦 216.7 横 45.6 | 紙本墨書 |
| T.0522 | 四行書 | 菊池秋浦 | 天保 13 年 (1842) | 一幅 | 縦 102.8 横 42.0 | 紙本墨書 |
| T.0523 | 七言律詩 | 日柳燕石 | 不明 | 一幅 | 縦 113.0 横 49.5 | 紙本墨書 |
| 歴史 刷物類 | | | | | | |
| B.0867 | 卓上ベースボール | | 昭和 6 年 (1931) | 一枚 | 縦 54.0 横 77.5 | 紙本印刷 |

■ 寄贈 ※掲載の順序は、採納手続き順による

20 年度 10件

| | | |
|---|-------|--------|
| 琴平写真 2 点 | 一式 | 酒井忠雄氏 |
| 中村一作氏撮影写真 1365 枚 | 一式 | 中村史人氏 |
| 松平頼寿筆「一行書」 | 1 点 | 矢野茂雄氏 |
| 五星文庫 235 点 | 一式 | (株)五星 |
| 讃岐の国ノ伊予多度津ヨリノ日記、頼山陽書翰、後藤漆谷「三行書」、狩野常真筆「花鳥図」「大黒図」 | 5 点 | 木村和男氏 |
| 聖徳太子御一代御絵伝巻 | 1 点 | 川田稔氏 |
| 讃岐高松藩 神埼譽浦 三行書ほか | 33 点 | 松田房徳氏 |
| 嘉永年間 讃岐高松藩分限録ほか | 125 点 | 水任流保存会 |
| 安原下村史料 | 163 点 | 木原溥幸氏 |
| 学校手牒 | 1 点 | 鏡原義未氏 |

21 年度 12件

| | | |
|-----------------------|------|--------|
| 日本修身書 | 1 点 | 大西猛章氏 |
| 講談社の「若い女性」フォノシートほか | 一式 | 居森重雄氏 |
| 通信表 2 点 | 2 点 | 中野善雄氏 |
| 私立香川県高等女学校規則書ほか | 16 点 | 伊藤勝一氏 |
| 古銭類 (89 枚) | 12 点 | 石村正博氏 |
| 藤澤南岳筆「五言絶句屏風」 | 1 点 | 国広寿一氏 |
| 赤松椋園(渡)筆「二行書」 | 1 点 | 大屋敦孝氏 |
| 絵本朝鮮征伐記 前編一、絵本浅草霊験記 五 | 2 点 | 池内 舞氏 |
| 教科書 (1895 ~ 1911 頃) | 7 冊 | 加島龍英氏 |
| 弥生土器 (高坏・壺) | 2 点 | 高橋芳樹氏 |
| 音丸耕堂筆「菖蒲図」 | 1 点 | 矢野茂雄氏 |
| 湯桶、編笠 | 2 点 | 池田美方子氏 |

2 貸出・特別利用

■ 貸出

20 年度 3件

| 分類番号 | 資料名 | 出品展覧会 | 会場 | 会期 |
|-----------|---------------------------|-------------------|------------|-----------------------------|
| T.0001 | 和歌 (松平頼重筆) | 読売書法会 25 周年記念特別展 | サンメッセ香川 | 平成 20 年 11 月 7 日 ~ 11 月 9 日 |
| T.0061 | 一行書 (松平頼胤筆) | 「四国ゆかりの能書家と著名人の書」 | | |
| T.0006 | 幸悦先生寿巻 (後藤芝山ほか筆) | | | |
| T.0043 | 婦去来之辞 (細川林谷印譜) | | | |
| T.0433 | 七言律詩 (後藤漆谷筆) | | | |
| O.0277 | 高松市街図屏風 | 特別展「近くてなつかしい昭和展」 | 香川県立ミュージアム | 平成 21 年 4 月 11 日 ~ 5 月 10 日 |
| O.0279 | 栗林公園図屏風 | | | |
| O.0278 | 屋島山上図屏風 | | | |
| A.0082 | 高松市戦災之図 昭和二十年七月四日午前一時四十八分 | | | |
| A.0179 | 高松復興都市計画図 | | | |
| A.0441-01 | 附第 1 図 道路現況図 | | | |
| A.0441-02 | 附第 2 図 昭和 28 年交通量調査図 | | | |
| B.0241 | 観光の高松 第八回国民体育大会開催記念 | | | |
| B.0383 | 観光高松大博覧会記念 景勝絵葉書 | | | |
| C.0979 | 第八回国民体育大会 高松市民の手帖 | | | |
| B.0275 | [パンフレット] 高松市復興 10 周年記念展 | | | |
| B.0150 | [ポスター] 東京オリンピック | | | |
| B.0151 | [アポロ 11 号記録写真] | | | |
| B.0226 | EXPO' 70 日本万国博覧会ポスター | | | |

Ⅲ 資料整備

| 分類番号 | 資料名 | 出品展覧会 | 会場 | 会期 |
|---------|--------------|------------------|-------------|---------------------------|
| ZZ.0066 | 武者絵図屏風(寄託資料) | 特別展「兜—もののふの美意識—」 | 高知県立歴史民俗資料館 | 平成 21 年 4 月 24 日～6 月 21 日 |

21 年度 1件

| 分類番号 | 資料名 | 出品展覧会 | 会場 | 会期 |
|------------|----------------|-------------------|---------|--------------------------|
| ZZ.0070-01 | 高(唐草)蒔絵鞍(寄託資料) | 特別展「馬 アジアを駆けた二千年」 | 九州国立博物館 | 平成 22 年 7 月 13 日～9 月 5 日 |
| ZZ.0070-02 | 高(唐草)蒔絵鏡(寄託資料) | | | |
| ZZ.0072 | 馬面(寄託資料) | | | |
| ZZ.0073 | 馬甲(寄託資料) | | | |
| ZZ.0082 | 丸十文字形轡(寄託資料) | | | |

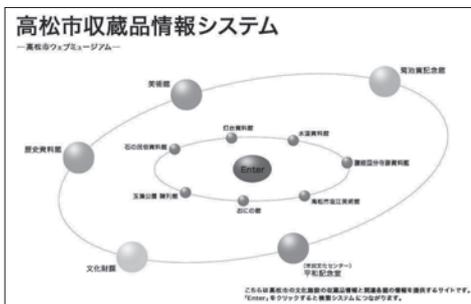
■ 特別利用

20 年度 74件

21 年度 90件

3 高松市収蔵品情報システム

歴史資料館、美術館、市民文化センター、菊池寛記念館の収蔵品および文化財課所管の出土品等のデータを一元管理し、公開可能なものについてインターネットにより広く公開する「高松市収蔵品情報システム」(高松市ウェブミュージアム)を構築するとともに、積極的な運用を図っている。



<http://www.takamatsu-webmuseum.jp/>

4 ボランティア活動

■ 古文書解読ボランティア

本館で収蔵する古文書等の資料については、平成 10 年度末から本格的に整理分類に着手している。しかし、一連の作業の中核として古文書の解読にあたる職員等の絶対数が不足しており、作業の円滑な進捗が懸念されるため、本館主催の古文書講座の受講生を中心に史料の解読をお手伝いしていただき、コンスタントに成果をあげている。

平成 20・21 年度 各 9 人

1 設置目的

本市の歴史・考古・民俗等に関する市民の知識および教養の向上と市民文化の発展に寄与するため。

2 建設基本構想

(1) 資料館の基本理念および性格

ア 基本理念

郷土の文化遺産を収集し、学術的な体系のもとに整理・保管・展示をして、市民の利用に供し、市民の生涯学習と文化の継承発展に資する。

イ 性格

- (ア) 歴史・考古・民俗等の各分野の資料を収集、保管して、伝承できる施設とする。
- (イ) 高松市の文化財の保護および利用の中心的役割を果たし、文化向上に寄与しうる施設とする。
- (ウ) 親しみやすく利用しやすい資料館として運営・活動を行い、市民の郷土学習の場としての役割を担う施設とする。
- (エ) 学校教育と密接な関係を持ち、児童生徒が体験学習を行える施設とする。
- (オ) 高松市の歴史と文化に関する情報をコンピュータに集積するとともに、他機関とのネットワーク化を図り、これらの情報を提供する施設とする。

(2) 資料館の機能

資料館は、展示、教育普及を中心とし、次の目的をもった機能を有するものとする。

ア 展示機能

高松市を特徴づけるテーマを選定し、収集資料を中心に展示する。

イ 教育普及機能

高松市の歴史と文化に関して学校教育との連携を図るとともに、生涯教育の場の提供と普及活動を行う。

ウ 収集機能

高松市に關係する歴史・考古・民俗等各資料を収集する。

エ 整理保管機能

重要な歴史・考古・民俗等の資料を中心に整理し、保管する。

オ 調査研究機能

収集資料および高松市の歴史と文化に関する調査・研究を行う。

(3) 資料館の規模・内容

ア 建設計画の基本的な考え方

市民が気軽に出入りでき、くつろいだ雰囲気の中で郷土の歴史と文化に親しめるとともに、障害者、高齢者にも配慮した施設とする。

また、観覧者と職員の動線が交わらないように収藏品、展示品の搬入、搬出に配慮し、維持管理および保守点検が容易な施設とする。

収藏品、展示品については、その安全性を確保するため、防犯・防火に備えるとともに、空気調整等により虫、菌、カビ、塵埃および湿度対策を行う。

さらに、ニューメディア、コンピュータの急速な進展等、将来の変化に対応できるよう融通性を持った施設とする。

イ 建設規模

個性的な資料館にするとともに、展示、教育普及を中心に、

収集、整理保管、調査研究等の諸機能が有機的に連携し、円滑に作動するよう延床面積は、おおむね次のとおりとする。
【建物延床面積 2,000 m²程度】

※大量に出土が見込まれる一般的な考古資料、民俗資料等の整理保管の施設については、別途確保とする。

(4) 資料収集の基本方針

資料の収集については、次のとおり計画し、実施する。

- ア 高松市教育委員会が発掘調査した出土遺物のうち、重要な遺物については資料館に保管する。
- イ 国、県および市指定の文化財所有者の協力を得て、資料収集をする。
- ウ 学識経験者、郷土史愛好グループ、一般市民等の情報提供により、文化財の所在データを作成し、必要により所有者の協力を得て収集する。
- エ 移動できないもの、消滅したものおよび無形のものについては、写真、図面、ビデオ等によって資料収集をする。
- オ 収集は、寄贈、寄託、購入等による。

3 沿革

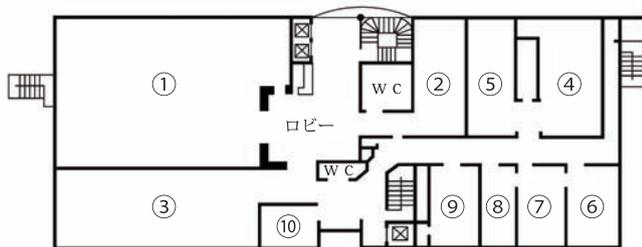
| | |
|-------------|--|
| 昭和 56 年 9 月 | 第 2 次高松市総合計画で、郷土資料の収集、保存、活用を図るために、郷土資料館の建設の検討が計画された。 |
| 昭和 59 年 3 月 | 学識経験者、文化団体関係者からなる高松市文化振興会議で郷土資料館の建設の提案がなされた。 |
| 昭和 61 年 6 月 | 史跡石清尾山古墳群整備基本計画策定計画書に、石清尾山古墳群に関連する郷土資料館建設が記載された。 |
| 昭和 62 年 6 月 | 高松市歴史民俗協会から、歴史民俗博物館設立の要望があった。 |
| 10 月 | 市制施行 100 周年記念事業計画会議から、100 周年記念事業の基本構想および基本計画のなかで、歴史民俗資料館建設の提言があった。 |
| 12 月 | 市制施行 100 周年記念事業基本構想・基本計画で記念施設の一つとして、歴史民俗資料館建設が決定された。 |
| 昭和 63 年 2 月 | 高松市図書館・歴史民俗資料館整備庁内連絡会を設置した。 |
| 7 月 | 高松市立歴史民俗資料館（仮称）建設検討懇談会を設置した。 |
| 平成元年 2 月 | 高松市立歴史民俗資料館（仮称）建設検討委員会から高松市歴史民俗資料館（仮称）基本構想報告書が提出された。教育民生調査会を開催した。 |
| 3 月 | 高松市立歴史民俗資料館（仮称）建設基本構想を策定した。 |
| 5 月 | 高松市歴史民俗資料館（仮称）展示基本構想研究会を設置した。 |
| 6 月 | 教育民生調査会を開催した。 |
| 平成元年 9 月 | 展示基本計画・基本設計を業務委託した。 |
| 平成 2 年 3 月 | 教育民生調査会を開催した。 |
| 7 月 | 教育民生調査会を開催した。 |
| 9 月 | 展示実施設計業務委託・映像資料設計業務を委託した。 |

| | |
|---------|---|
| 10月 | 起工式 |
| 平成3年7月 | 常設展示室等展示業務を委託した。 |
| 平成4年7月 | 建物工事が竣工した。高松市歴史資料館条例を制定。正式名称を「高松市歴史資料館」とした。 |
| 4月 | 事務局を開設した。 |
| 7月 | 教育民生調査会を開催した。 |
| 11月 | 3日(文化の日)に開館 |
| 平成18年1月 | 近隣6町との合併により、新しく石の民俗資料館、香南歴史民俗郷土館、讃岐国分寺跡資料館を管轄し、その事務を担当する。 |

4 施設概要

| | | |
|------------------|--------------------------------|-------------------------|
| 名称 | 高松市歴史資料館(中央図書館・菊池寛記念館と併設) | |
| 所在地 | 高松市昭和町一丁目2番20号 | |
| 敷地面積 | 3,921 m ² | |
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート造・地下2階・地上4階建・塔屋 | |
| 建築面積 | 2,492 m ² | |
| 延床面積 | 11,330 m ² | |
| | うち歴史資料館部分(4階) | 1,925 m ² |
| | 共用部分(エントランスホール・機械室・階段・エレベーター等) | 3,544.93 m ² |
| 各室一覧 | | |
| ① 常設展示室 | | 503 m ² |
| ② プレイミュージアム(学習室) | | 99 m ² |
| ③ 特別展示室 | | 263 m ² |
| ④ 第1収蔵庫 | | 115 m ² |
| ⑤ 第2収蔵庫 | | 93 m ² |
| ⑥ スタジオ | | 61 m ² |
| ⑦ 調査研究室 | | 65 m ² |
| ⑧ 資料室 | | 48 m ² |
| ⑨ 事務局 | | 65 m ² |
| ⑩ 展示備品室 | | — |

平面図



| | | |
|-------------|-------------|------------------------|
| 工事関係 一 覧 | [監理] | 高松市土木部建築課 |
| | [設計管理] | (株) 梓設計 |
| | [建設工事] | 大成・大林・鴻池・合田建設共同企業体 |
| | [給排水衛生設備工事] | ナミレイ・サン技研建設共同企業体 |
| | [電気工事] | 浅海・昭和・大よし共同企業体 |
| | [空調設備工事] | 高砂熱学工業・朝日工業社・雉島工業共同企業体 |
| | [昇降機設備工事] | 日本オーチスエレベーター |
| | [立体駐車場工事] | 石川島播磨重工業 |
| | [展示業務] | (株) 乃村工藝社 |

5 組織と業務

高松市歴史資料館は、高松市・高松市教育委員会が建設し、管理運営を行っている。事務局は、同委員会文化部歴史資料館におかれ、正規職員と非常勤嘱託職員から構成されている。

資料館は、高松市歴史資料館条例および同施行規則に基づいて活動しており、組織については、高松市歴史資料館処務規定に基づいている。さらに、資料館の適正な運営を図るため、高松市歴史資料館運営協議会を年1回開催している。

資料の取扱いについては、高松市歴史資料館資料取扱い要綱に基づいて、適切に対処している。さらに、重要な資料の収集にあたっては高松市歴史資料館資料収集調査委員会設置要綱に基づき、同委員会に諮問し、その答申に沿って収集している。

■ 業務内容

- 1 常設展示の運営、管理
- 2 館内庶務及び予算事務
- 3 特別展の開催
- 4 教育学習に関する事業
- 5 資料収集、整理、保管
- 6 資料に関する調査研究と情報提供
- 7 資料に関する解説書、図録、目録、研究報告書等の刊行
- 8 資料の利用に関する助言、指導
- 9 運営協議会事務
- 10 他の資料館、関係機関、団体との協力
- 11 その他資料館が行う事業

■ 合併による文化施設編入について

平成17年度の市町合併により、下記の三館を高松市歴史資料館が統括することになり、互いに協力し合って新しい事業展開を図っている。

・石の民俗資料館
高松市牟礼町牟礼 1810 Tel.087-845-8484
五剣山南麓の「石匠の里公園」の中核施設であり、石材産業の民俗資料を収集・展示する全国でも例のない資料館。ジオラマ展示や体験学習広場を設けるなど楽しみながら石と触れ合うことができる。また、各種の特別展や講座も開催。

・香南歴史民俗郷土館
高松市香南町由佐 253-1 Tel.087-879-0717
南北朝時代、足利尊氏に属して功績を挙げた由佐秀助という武將がこの地を賜り、京都から讃岐に渡って由佐城を築城した。この郷土館は、その居城跡に、城の土塁といわれるものや古い屋敷の庭石、樹木の一部を大切に活かして庭を造り、城をかたどって創られた施設。

・讃岐国分寺跡資料館
高松市国分寺町国分 2177-1 Tel.087-874-8840
国分寺跡保存整備事業の一環として建設された資料館で、発掘調査で出土した瓦・土器・金属器などを展示。映像学習室ではアニメーションを取り入れた讃岐国分寺跡の歴史ビデオを放映。また、国分寺跡史跡公園には、奈良唐招提寺と同規模の金堂、七重の塔など、天平文化の粋を集めて造られた讃岐国分寺の伽藍配置模型(1/6)を設置。

■名簿

高松市歴史資料館等協議会

(平成20年11月3日～平成22年11月2日)

| | | |
|--------|-------|----------------------------|
| 学識経験者 | 佐藤恒雄 | 香川大学名誉教授 |
| | 丹羽佑一 | 香川大学経済学部教授 |
| 関係団体役員 | 上井嘉 | 香川県小学校教育研究会 高松支部社会科部会役員 |
| | 日下利男 | 香川県中学校教育研究会 高松支部社会科部会役員 |
| | 宮本康子 | 高松市歴史民俗協会事務局 役員 |
| | 葛西優子 | 高松市PTA連絡協議会 副会長 |
| その他 | 荒木ヨシ子 | 讃岐国分寺跡資料館 友の会役員 |
| | 松下桂子 | 元香南歴史民俗郷土館 運営協議会委員 |
| | 奥谷義明 | 文化協会むれ役員 |
| 公募 | 小西 勇 | |

職員

| | | |
|------|------|--|
| 20年度 | 館長 | 宮本 弘 |
| | 業務係長 | 古川智恵美 |
| | 学芸員 | 毛利直子 |
| | 管理係 | 赤澤美保 |
| | 嘱託員 | 宮本加津江 平松美晴 堀 純子 河西由美子 谷 真琴 大西由子 |
| 21年度 | 館長 | 宮本 弘 |
| | 業務係長 | 古川智恵美 |
| | 学芸員 | 毛利直子 |
| | 管理係 | 赤澤美保 |
| | 嘱託員 | 平松美晴 中條亜希子 堀 純子 河西由美子 谷 真琴 大西由子 |

6 関係法規

高松市歴史資料館条例

平成4年3月27日条例第19号

(設置)

第1条 本市の歴史、考古、民俗等に関する市民の知識および教養の向上と市民文化の発展に寄与するため、高松市歴史資料館（以下「資料館」という。）を高松市昭和町一丁目2番20号に設置する。

(事業)

第2条 資料館は、前条に規定する資料館の設置目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 本市の歴史、考古、民俗等に関する資料（以下「資料」という。）の収集、保管および展示を行うこと。
- (2) 本市の歴史、考古、民俗等に関する調査研究を行うこと。
- (3) 本市の歴史、考古、民俗等に関する展覧会、講演会等を開催すること。
- (4) 本市の歴史、考古、民俗等に関する情報を提供すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、資料館の設置目的を達成するために必要な事業

(観覧料)

第3条 資料館の展示を観覧しようとする者は、別表に規定する観覧料を納付しなければならない。

(観覧料の返還)

第4条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、教育委員会（以下「委員会」という。）が特別の理由があると認める場合は、返還することができる。

(観覧料の減免)

第5条 市長は、委員会において必要があると認める場合は、観覧料を減額し、または免除することができる。

(利用の制限)

第5条の2 委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を拒み、または退館を命ずることができる。

- (1) 秩序を乱し、もしくは公益を害し、またはそのおそれがあると認められる者
- (2) 資料館が展示もしくは保管をしている資料または資料館の施設・設備等を損傷し、もしくは滅失し、またはそのおそれがあると認められる者
- (3) その他資料館の管理上支障があると認められる者

(損害賠償)

第6条 資料館の入館者が、自己の責めに帰すべき理由により、資料または資料館の施設・設備等を損傷し、または滅失したときは、委員会の指示に従い、その損害を賠償しなければならない。

(高松市歴史資料館等協議会への諮問)

第7条 委員会は、第2条各号に掲げる事業に関する基本的な事項については、高松市歴史民俗分野および美術分野社会教育施設協議会条例（平成20年高松市条例第29号）に規定する高松市歴史資料館等協議会に諮問するものとする。

(職員)

第8条 資料館に館長その他必要な職員を置く。

(委任)

第9条 この条例の施行に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この条例は、平成4年11月3日から施行する。ただし、第8条の規定は、規則で定める日から施行する。（平成4年高松市規則第15号により、同年4月1日から施行）

附 則（平成11年7月14日条例第19号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成12年3月27日条例第6号）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成20年3月26日条例第29号抄）

(施行期日)

1 この条例は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成22年3月26日条例第7号）

この条例は、平成22年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）

| 区分 | 観覧料(1人1回につき) | |
|-----|--------------|-----------|
| | 個人 | 団体(20人以上) |
| 一般 | 200円 | 160円 |
| 大学生 | 150円 | 120円 |

備考

- 1 「一般」とは15歳以上の者（大学生および備考2の規定の適用を受ける者を除く。）をいい、「大学生」とは学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する大学その他これに準ずるものに在学する者をいう。
- 2 就学年齢に達しない者または学校教育法第1条に規定する小学校、中学校もしくは高等学校に在学する者もしくは委員会がこれらに準ずると認める者は、無料とする。

高松市歴史資料館条例施行規則

平成4年3月27日教育委員会規則第2号

（趣旨）

第1条 この規則は、高松市歴史資料館条例（平成4年高松市条例第19号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第2条 高松市歴史資料館（以下「資料館」という。）の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、展示室および学習室への入室は、午後4時30分までとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、館長が特に必要があると認めるときは、開館時間を変更することができる。

（休館日）

第3条 資料館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（その日が、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その日後においてその日に最も近い同法に規定する休日でない日とする。）
- (2) 12月29日から翌年1月3日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、館長が特に必要があると認めるときは、臨時に休館し、または開館することができる。

（観覧券の交付）

第4条 条例第3条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第1号）を交付する。

（観覧料の返還）

第5条 条例第4条ただし書に規定する観覧料を返還することができる場合は、天災地変その他観覧料を納付した者の責めによらない理由で観覧できなくなったときとする。

- 2 観覧料の返還を受けようとする者は、高松市歴史資料館観覧料返還申請書（様式第2号）を速やかに教育委員会（以下「委員会」という。）に提出しなければならない。

（観覧料の減免）

第6条 条例第5条に規定する委員会において観覧料の免除を必要と認める場合は、次のとおりとする。

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する小学校、中学校、高等学校その他これらに準ずるものの児童または生徒が教育課程に基づく教育活動の一環として展示を観覧する場合において、これらの者の引率者が展示を観覧するとき。
 - (2) 65歳以上の者で、長寿手帳（香川県が交付する手帳をいう。）、免許証その他の年齢を証する書面を所持するものが、展示を観覧するとき。
 - (3) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けた者が、展示を観覧するとき。
 - (4) 療育手帳制度要綱（昭和48年9月27日厚生省発児第156号厚生事務次官通知）に規定する療育手帳の交付を受けた者が、展示を観覧するとき。
 - (5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者が、展示を観覧するとき。
- 2 前項第1号の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ委員会に申請しなければならない。
 - 3 第1項第2号から第5号までの規定により観覧料の免除を受けようとする者は、観覧の際、職員に当該各号に掲げる手帳等を提示しなければならない。
 - 4 第1項に規定するもののほか、観覧料の減免を必要と認める場合は、委員会が特別の理由があると認めるときとする。

（入館者の遵守事項）

第7条 資料館の入館者（以下「入館者」という。）は、次の事項を守らなければならない。

- (1) 資料館が展示もしくは保管をしている本市の歴史、考古、民俗等に関する資料（以下「資料」という。）に触れないこと。
- (2) 他の入館者に迷惑となる行為をしないこと。
- (3) 所定の場所以外で飲食し、または喫煙しないこと。
- (4) 火気を使用しないこと。
- (5) 危険物または動物を持ち込まないこと。ただし、身体障害者が同伴する身体障害者補助犬については、この限りでない。

- (6) 物品等の販売または展示、びら等の配布その他これらに類する行為をしないこと。
 - (7) 許可なく資料の撮影をしないこと。
 - (8) その他資料館の職員の指示に従うこと。
- (損傷等の届出)

第8条 入館者が、資料または資料館の施設・設備等を損傷し、または滅失したときは、高松市歴史資料館資料・施設・設備等損傷・滅失届(様式第3号)を直ちに委員会に提出しなければならない。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規則は、平成4年11月3日から施行する。

附 則(平成10年9月28日教委規則第3号)

この規則は、平成10年11月3日から施行する。

附 則(平成11年7月14日教委規則第7号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成12年3月27日教委規則第3号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成13年11月30日教委規則第10号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成14年9月27日教委規則第7号)

この規則は、平成14年10月1日から施行する。

附 則(平成17年7月28日教委規則第9号抄)

この規則は、平成17年8月1日から施行する。

附 則(平成20年3月31日教委規則第9号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成22年3月26日教委規則第7号)

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成22年11月25日教委規則第14号)

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

高松市歴史民俗分野および美術分野社会教育施設協議会条例

平成20年3月26日条例第29号

(設置)

第1条 歴史、民俗および美術に関する社会教育のための公の施設の運営に関し調査審議するため、教育委員会(以下「委員会」という。)に、歴史および民俗の分野ならびに美術の分野ごとに協議会を置く。

(名称)

第2条 前条の協議会(以下「協議会」と総称する。)の名称は、高松市歴史資料館等協議会(以下「歴史資料館等協議会」という。)および高松市美術館協議会(以下「美術館協議会」という。)とする。

(所掌事項)

第3条 協議会は、それぞれ次に掲げる公の施設の運営に関し、委員会の諮問に応じて調査審議する。

(1) 歴史資料館等協議会 高松市歴史資料館、高松市石の民俗資料館、高松市香南歴史民俗郷土館および高松市讃岐国分寺跡資料館

(2) 美術館協議会 高松市美術館および高松市塩江美術館

2 美術館協議会は、高松市美術館に関しては、博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項に規定する博物館協議会とし、前項に規定するもののほか、同条第2項の規定により美術館協議会の権限に属させられた事項を処理する。この場合においては、前項中「委員会」とあるのは、「館長」とする。

(組織)

第4条 協議会は、歴史資料館等協議会にあつては委員11人以内、美術館協議会にあつては委員15人以内で組織する。

2 協議会の委員は、歴史資料館等協議会にあつては学識経験を有する者、関係団体の役員その他委員会が適当と認める者のうちから、美術館協議会にあつては学識経験を有する者、学校教育および社会教育の関係者ならびに家庭教育の向上に資する活動を行う者のうちから、委員会が委嘱する。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長および副会長)

第6条 協議会にそれぞれ会長および副会長1人を置く。

2 会長および副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、または会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 協議会の会議は、会長が招集し、会長は、会議の議長となる。

2 協議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 前項の場合において、議長は、委員として議決に加わることができない。

(幹事)

第8条 協議会にそれぞれ幹事若干人を置く。

2 幹事は、委員会の職員のうちから、委員会が任命する。

3 地方自治法(昭和22年法律第67号)第180条の7の規定により第3条第1項各号に掲げる公の施設の運営に関する事務を市長の補助機関である職員に補助執行させる場合における前項の規定の適用については、同項中「委員会の職員」とあるのは「市職員」と、「任命する」とあるのは「任命し、または委嘱する」とする。

4 幹事は、協議会に出席し、調査審議事項について意見を述べるができる。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成20年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際、現に附則第5項の規定による改正前の高松市歴史資料館条例(平成4年高松市条例第19号)第7条の規定により委嘱された高松市歴史資料館運営協議会の委員である者ならびに現に附則第9項の規定による改正前の高松市美術館条例(昭和63年高松市条例第10号)第18条および博物館法第21条の規定により委嘱された高松市美術館協議会の委員である者は、この条例の施行の日に、第4条第2項の規定により、それぞれ歴史資料館等協議会の委員および美術館協議会の委員として委嘱されたものとみなす。

3 この条例の施行の日以後最初に委嘱される委員(前項の規定により歴史資料館等協議会または美術館協議会の委員に委嘱されたものとみなされる者を含む。)の任期は、第5条第1項本文の規定にかかわらず、歴史資料館等協議会の委員にあっては平成20年11月2日まで、美術館協議会の委員にあっては平成21年6月30日までとする。

(高松市特別職の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

4 高松市特別職の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和31年高松市条例第20号)の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

(高松市歴史資料館条例の一部改正)

5 高松市歴史資料館条例の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

(高松市石の民俗資料館および石匠の里公園条例の一部改正)

6 高松市石の民俗資料館および石匠の里公園条例(平成17年高松市条例第233号)の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

(高松市香南歴史民俗郷土館条例の一部改正)

7 高松市香南歴史民俗郷土館条例(平成17年高松市条例第234号)の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

(高松市讃岐国分寺跡資料館条例の一部改正)

8 高松市讃岐国分寺跡資料館条例(平成17年高松市条例第235号)の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

(高松市美術館条例の一部改正)

9 高松市美術館条例の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

(高松市塩江美術館条例の一部改正)

10 高松市塩江美術館条例(平成17年高松市条例第128号)の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

附 則(平成21年3月25日条例第7号)

この条例は、平成21年7月1日から施行する。

7 統計資料

■ 特別展他観覧者数

20 年度

| 展覧会名 | 有料(人) | | | 無料(人) | | | 合計(人) | 日数 |
|--------------------------|-------|------|------|--------|------|-------|--------|-----|
| | 一般 | 高・大生 | 小・中生 | 一般 | 高・大生 | 小・中生 | | |
| 収蔵品展 れきしに出会う | 186 | 20 | 8 | 420 | 3 | 36 | 673 | 38 |
| 第 48 回特別展 近代香川の人物譜 | 226 | 5 | 7 | 634 | 0 | 853 | 1,725 | 38 |
| 第 49 回特別展 人形の・夢・見ゆるひと | 449 | 72 | 54 | 637 | 58 | 364 | 1,634 | 38 |
| 第 50 回特別展 近代をつくった大工棟梁 | 328 | 22 | 11 | 537 | 18 | 272 | 1,188 | 38 |
| 共催展 発掘へんろ | 106 | 4 | 1 | 233 | 1 | 275 | 620 | 26 |
| 収蔵品展 長町竹石 文人画の世界 | 176 | 7 | 3 | 411 | 0 | 258 | 855 | 38 |
| 常設展・ロビー展等 | 427 | 46 | 0 | 12,631 | 0 | 2,256 | 15,360 | 308 |

21 年度

| 展覧会名 | 有料(人) | | | 無料(人) | | | 合計(人) | 日数 |
|---|-------|------|------|--------|------|-------|--------|-----|
| | 一般 | 高・大生 | 小・中生 | 一般 | 高・大生 | 小・中生 | | |
| 収蔵品展 高松市内の遺跡発掘調査速報展 | 163 | 9 | 15 | 237 | 1 | 82 | 507 | 38 |
| 第 51 回特別展 資料館がすごいぞかん!! 造形にみる水のいきものたち | 293 | 18 | 122 | 603 | 0 | 276 | 1,312 | 38 |
| 企画展 旅する文人 細川林谷 | 341 | 9 | 2 | 505 | 2 | 584 | 1,443 | 38 |
| 第 52 回特別展 対決・協調カップルズ | 282 | 38 | 2 | 656 | 5 | 428 | 1,411 | 38 |
| 第 53 回特別展 民具と生活、それぞれの四季 | 158 | 17 | 5 | 141 | 5 | 246 | 572 | 39 |
| 常設展・ロビー展等 | 542 | 56 | 0 | 12,708 | 43 | 2,682 | 16,031 | 307 |

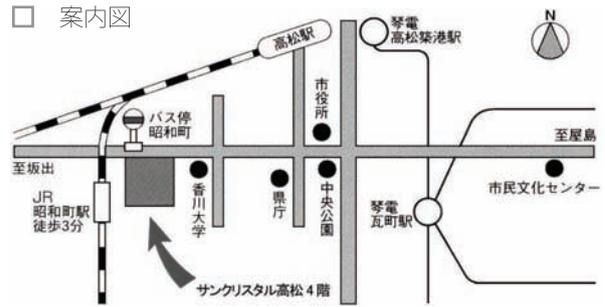
■ 特別展等実績 (各年度経過)

| 年度 | 展覧会名 | 開催日数 (日間) | 観覧者 総数(人) | 一日平均 観覧者数(人) |
|---------|--|--------------|--------------|-----------------|
| 平成 4 年 | 第 1 回特別展 開館記念 仏生山法然寺の名宝展 | 19 | 5,245 | 276 |
| | 第 2 回特別展 大地から見た高松の歴史 | 30 | 2,920 | 97 |
| 平成 5 年 | 第 3 回特別展 讃岐の文人画展 | 56 | 4,340 | 78 |
| | 第 4 回特別展 開館 1 周年記念 名刀が語る日本刀の歴史展 | 32 | 3,615 | 113 |
| | 第 5 回特別展 高松平野の考古学のあけぼのー小竹一郎旧蔵資料展 | 43 | 4,122 | 96 |
| 平成 6 年 | 第 6 回特別展 写真が語る高松のあゆみ | 56 | 3,063 | 55 |
| | 第 7 回特別展 開館 2 周年記念 描かれし美の世界ー讃岐に関する画人・作品を中心に | 43 | 3,798 | 88 |
| | 第 8 回特別展 鏡の美ー讃岐出土・伝来の和鏡を中心として | 50 | 3,493 | 70 |
| 平成 7 年 | 第 9 回特別展 讃岐一宮 田村神社の名宝展 | 54 | 4,068 | 75 |
| | 第 10 回特別展 開館 3 周年記念 北斎・広重から棟方志功までー町田市立国際版画美術館所蔵品を中心に | 38 | 3,852 | 101 |
| | 第 11 回特別展 讃岐の古瓦展ー白鳳・天平の曇 | 50 | 3,140 | 63 |
| 平成 8 年 | 第 12 回特別展 高松市歴史資料館コレクション展ー美術・考古・民俗資料編 | 49 | 2,897 | 59 |
| | 第 13 回特別展 開館 4 周年記念 名刀展ー鐵の匠 | 50 | 5,167 | 103 |
| | 第 14 回特別展 高松埋蔵文化財展 | 48 | 3,533 | 74 |
| 平成 9 年 | 第 15 回特別展 全国郷土玩具展ー樋口準一氏寄贈玩具を中心として | 44 | 2,422 | 55 |
| | 第 16 回特別展 開館 5 周年記念 水戸徳川家の名宝展 | 25 | 4,109 | 164 |
| | 第 17 回特別展 馬の文化展ー讃岐を駆けぬけた馬たち | 50 | 2,850 | 57 |
| 平成 10 年 | 第 18 回特別展 たかまつ香西のまつり | 41 | 2,115 | 52 |
| | 第 19 回特別展 弘憲寺の名宝展 | 26 | 2,749 | 106 |
| | 第 20 回特別展 源平合戦図絵の世界 | 26 | 2,310 | 89 |
| 平成 11 年 | 第 21 回特別展 幻の宮伊勢斎宮ー王朝の祈りと皇女たち | 22 | 3,467 | 158 |

| 年度 | 展覧会名 | 開催日数 (日間) | 観覧者 総数(人) | 一日平均 観覧者数(人) |
|---------|--|--------------|--------------|-----------------|
| 平成 11 年 | 第 22 回特別展 讃岐の古画にみる動物たち | 40 | 1,189 | 30 |
| | 第 23 回特別展 野球王国・高松が生んだ宿命のライバルー水原茂と三原脩の野球人生 | 38 | 2,819 | 74 |
| | 館外展示 矢島で屋島展 一生執念正公の開いた高松と源平屋島合戦 (矢島町郷土資料館) | 22 | 1,708 | 78 |
| | 収蔵品展 古文書に見る人々の暮らし | 38 | 1,210 | 32 |
| 平成 12 年 | 収蔵品展 栗田コレクション展 | 32 | 917 | 29 |
| | 第 24 回特別展 山田地区の文化財ー川島・十河・東植田・西植田に伝えられた品々 | 38 | 1,875 | 49 |
| | 第 25 回特別展 高松市市制施行 110 周年記念事業・文化財保護法 50 年記念 芦葉江と名刀展 | 38 | 2,465 | 65 |
| 平成 13 年 | 第 26 回特別展 高松市市制施行 111 周年記念事業 秋田県矢島町と生駒氏 | 38 | 2,288 | 60 |
| | 収蔵品展 拓本展 | 32 | 772 | 24 |
| | 第 27 回特別展 怪童・中西太展 | 38 | 1,421 | 37 |
| | 第 28 回特別展 高松市市制施行 111 周年記念事業 高松市の 111 年 | 44 | 2,338 | 53 |
| 平成 14 年 | 第 29 回特別展 近世の高松画壇ー御用絵師と文人を中心に | 38 | 1,238 | 33 |
| | 収蔵品展 弓の名手・那須与一展 | 38 | 1,040 | 27 |
| | 第 30 回特別展 メモリー [映画・映像の文化] | 39 | 886 | 23 |
| | 第 31 回特別展 開館 10 周年記念 彦根藩主 井伊家の名宝ー華麗なる大名道具の数々 | 30 | 2,225 | 74 |
| 平成 15 年 | 第 32 回特別展 林・三谷地区の文化財 | 32 | 1,654 | 52 |
| | 企画展 ある収集家のコレクション展 | 26 | 574 | 22 |
| | 共催展 高松自動車道全線開通記念埋蔵文化財展 讃岐横断 101km | 30 | 1,118 | 37 |
| | 第 33 回特別展 ヒーローズ [昭和のイラスト・特撮の世界] | 51 | 1,730 | 34 |
| | 第 34 回特別展 高松城と栗林園 | 32 | 1,893 | 59 |
| 平成 16 年 | 第 35 回特別展 歴史と現代の対話ー広告・宣伝の文化史 | 44 | 1,560 | 35 |
| | 収蔵品展 殿様の書状 | 32 | 559 | 17 |
| | 第 36 回特別展 印刷メディアあれこれー近代の教育がみえる | 38 | 650 | 17 |
| | 第 37 回特別展 仏生山・多肥地区の文化財 | 44 | 1,904 | 43 |
| | 第 38 回特別展 讃岐の文人・後藤漆谷の書跡とその周辺 | 38 | 788 | 21 |
| 平成 17 年 | 収蔵品展 コレクション大公開ー歴史資料館の錦絵 | 32 | 994 | 31 |
| | 第 39 回特別展 名刀芦葉江と讃岐の刀 | 38 | 1,759 | 46 |
| | 第 40 回特別展 源義経と源平合戦 | 38 | 1,944 | 51 |
| | 第 41 回特別展 嵐徳三郎の世界 | 38 | 1,430 | 38 |
| 平成 18 年 | 収蔵品展 新たに仲間となりました | 26 | 1,282 | 49 |
| | 第 42 回特別展 武士の装い | 35 | 3,511 | 100 |
| | 第 43 回特別展 戦前の教育者群像 | 45 | 4,163 | 93 |
| | 収蔵品展 栗山とその周辺 | 34 | 1,026 | 30 |
| | 第 44 回特別展 ことばとかたちの歴史 | 38 | 1,566 | 41 |
| 平成 19 年 | 企画展 高松城跡天守台発掘速報展 | 38 | 782 | 21 |
| | 第 45 回特別展 渡辺コレクション展 | 38 | 2,018 | 53 |
| | 第 46 回特別展 万葉を愛した人物・中村一作展 | 38 | 778 | 20 |
| | 共催巡回展 発掘へんろー遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波 | 27 | 880 | 33 |
| | 第 47 回特別展 布をめぐる旅ー込められた物語・歴史・表現 | 38 | 3,074 | 81 |
| 平成 20 年 | 収蔵品展 れきしに会うー新収蔵品で知る人と風景 | 38 | 673 | 18 |
| | 第 48 回特別展 近代香川の人物譜ー菊池寛と同じ時代を生きた人々 | 38 | 1,725 | 46 |
| | 第 49 回特別展 人形の・夢・見ゆるひと | 38 | 1,634 | 43 |
| | 第 50 回特別展 近代をつくった大工棟梁ー高松の大工久保田家とその仕事 | 38 | 1,188 | 32 |
| | 共催巡回展 発掘へんろー遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波 | 26 | 620 | 24 |
| | 収蔵品展 長町竹石 文人画の世界 | 38 | 855 | 23 |
| 平成 21 年 | 収蔵品展 高松市内の遺跡発掘調査速報展ー弥生土器に見るムラの暮らし | 38 | 507 | 14 |
| | 第 51 回特別展 資料館がすいぞくかん!ー造形にみる水のいきものたち | 38 | 1,312 | 35 |
| | 企画展 旅する文人 細川林谷ーその書画と篆刻 | 38 | 1,443 | 38 |
| | 第 52 回特別展 対決・協調 カップルズ | 38 | 1,411 | 38 |
| | 第 53 回特別展 民具と生活、それぞれの四季 | 39 | 572 | 15 |

8 利用案内 (平成23年4月1日現在)

- 開館時間
9:00~17:00(入館は16:30まで)
- 休館日
月曜日(休日の場合は翌日)
年末・年始(12月29日~翌年1月3日)
- 観覧料
一般 200円(160円) 大学生 150円(120円)
高校生以下は無料 ※()内は20人以上団体料金



■ 石の民俗資料館

高松市牟礼町牟礼1810 TEL:087-845-8484

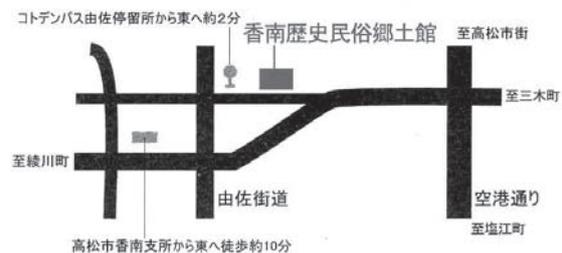
開館時間 : 9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日 : 月曜日(休日の場合は翌日)
観覧料 : 一般 200円(160円) 大学生 150円(120円)
高校生以下は無料
※()内は20人以上団体料金



■ 香南歴史民俗郷土館

高松市香南町由佐253番地1 TEL:087-879-0717

開館時間 : 9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日 : 月曜日(休日の場合は翌日)
観覧料 : 無料



■ 讃岐国分寺跡資料館

高松市国分寺町国分2177番地1 TEL:087-874-8840

開館時間 : 9:00~16:30
休館日 : 月曜日(休日の場合は翌日)
観覧料 : 大学生以上 100円(80円)
高校生以下は無料
※()内は20人以上団体料金



高松市歴史資料館年報 平成20・21年度 No.12

編集 山本英之・赤澤美保(高松市歴史資料館)
デザイン 谷 真琴(高松市歴史資料館)
印刷 株式会社 成光社
発行 平成23年3月 高松市歴史資料館
〒760-0014 高松市昭和町一丁目2番20号
TEL 087(861)4520・FAX 087(837)9114
URL <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/643.html>

